

創立10周年

おやじ日本

父親よ、
子どものつぶやきに耳を傾けよう。
子どものいる学校へ出かけよう。
子どもが育つ地域へ、もっと足を運ぼう。
不器用でも、口べたでも、
子どもに思いを伝えよう。
そして、子どもとともに楽しもう。
やれることはたくさんある。
家庭だけでなく地域の「おやじ」になろう。
地域の「おやじ」と手をつなごう。

おやじ出番だ!

認定特定非営利活動法人

おやじ日本

表紙題字

書家 吉田 照子

表紙文

我妻 弘 小山 洋子

表紙デザイン

片山 潮

<http://www.oyaji-nippon.org/>

おやじの責任を果たすために

認定特定非営利活動法人おやじ日本 理事長 竹花 豊

「子どもは次代を担う社会の宝」とはよく言われることですが、今という時代は本当にそのように動いているのでしょうか。

繰り返されるいじめや体罰問題、児童虐待、自尊心を持てない子どもたちの多さ、社会に適應できない多くの若者の現出等々問題は根深いものがあるようです。

その原因やトータルな解決法についての議論はさておいて、はっきりしていることは、情報が氾濫している中で、真っ当な大人が大切だと思うことを子どもたちにしっかり(触れたくない問題も逃げないで)伝えていく特段の努力が重要だということです。社会は大きく変化しており、子どもたちの生きるすぐ先の社会は今よりもっと厳しいものになるでしょう。そこで生き抜いていくために十分な準備をしておいてほしいものです。不得手な勉強にもチャレンジしてほしい、身体も鍛えてほしい、世の中はいろいろだから苦勞をいとわず頑張れる気持ちの強さも身につけてほしい、自分を持ちながら回りともうまくやる知恵も身につけてほしいと思います。ゲームや携帯のとりこになってはそんな力が身につきません。また、勉強だけして、よい大学に行くだけで人生が開ける時代は終わりましたし、誰かが助けてくれると期待していても何も始まりません。

私たち大人には、子どもたちに伝えたいものがあるはずです。それを伝えなければ、子どもたちがいざ社会に出て、自分が何も知らされていないなかったことに衝撃を受けるでしょう。孤独感を深める若者が出てきても不思議ではありません。

おやじ日本は、「子どもたちに本気で伝える」大人の責任を果たしたい、それがたとえ小さな力でも、一歩踏み出した取り組みをしたいと考えてきました。これからもそんな努力を続けたいと決意しています。

これまでに当法人をご支援いただいた方々に感謝を申し上げるとともに、今後も広くサポートして下さるようお願い申し上げます。



元東京都副知事
東京都教育委員

おやじ日本活動方針

1. 「おやじ日本」は子どもと地域に向かい合おうとする父親を応援する。
2. 子どもや地域のことについて、父親が学ぶ機会を提供する。
3. 全国の「おやじの会」の情報交換と交流を支援する。
4. 地域で生き活きと生きる「おやじ」集団づくりを目指す。
5. 社会に向けて「おやじ」として提言する。
6. これらの目的を実現するために、ホームページ等による情報提供を行い、年1回の全国大会を開催する。

..... 目 次

表紙(おやじ宣言)	1	iS(アイエス)運動	22
理事長挨拶・活動方針・目次	2	「未来教室」学校と企業との連携支援	23~25
あゆみ《2004年~2008年》	3	新聞報道	26
あゆみ《2009年~2012年》	4	その他の活動	27
あゆみ《2013年》/《2008年》	5	資料編 特定非営利活動法人おやじ日本 定款	28~31
あゆみ《2009年》	6~9	正会員入会申込書	32
あゆみ《2010年》	10~12	登録会員	33
あゆみ《2011年》	13~15	賛助会員	34
あゆみ《2012年》	16~17	資料・グッズ・広報関係	35
広がれ! おやじネットワーク	18~20	活動写真・事務所	36
83運動	21		

活 動 概 要

2004年 平成16年	・おやじ日本設立宣言 ・「総監督」に星野仙一氏と野村萬斎氏が就任 ・おやじ日本全国大会及びおやじ東京全都大会 6月27日(日)13:00～ 於:東京都総合技術教育センター 基調講演「おやじ、頑張ろう！」講師:星野仙一氏 パネルディスカッション「おやじ、知ってくれ！」 パネリスト:赤枝恒雄氏、小杉礼子氏、酒井真理子氏、我妻弘氏 コーディネーター:竹花豊氏 事例発表「おやじ、やってみようよ」「おやじが変わろう」広島県廿日市野坂中学校区おやじの会他
2005年 平成17年	・おやじ日本会長に竹花豊氏が就任 ・おやじ日本全国大会及びおやじ東京全都大会 6月26日(日)13:00～ 於:東京都総合技術教育センター 基調講演「気づかせて育てる子どもの力」講師:山口良治氏 シンポジウム「子どもが安心して、いきいきと育つ地域とは」 パネリスト:寺脇研氏 曾田良三氏 前田泰洋氏 コーディネーター:竹花豊会長 おやじトーク&コンサート 作詞家星野哲郎氏とおやじの“はっぴー”な会話 おやじ日本・応援歌「おやじ」披露 作詞 星野哲郎 作曲・演奏・歌 あどRun太 ・子どもたちを犯罪から守るため、83子ども見守り運動推進に向け準備 協力:(株)電通CSR室社会貢献部(ポスター、カンパッチ等作成) ・「ネット社会の危険な落とし穴から子ども達を守ろう」フォーラム 2005 参加 11月25日 於:東京都庁
2006年 平成18年	・おやじ日本規約制定 ・83運動推進開始 協力:(株)電通CSR室社会貢献部 ・新たな危険から子どもを守る『市民ネット』フォーラム参加 2月11日 於:ハイプラザいたばし ・おやじ日本全国大会及びおやじ神奈川設立大会 6月11日(日)13:00～ 於:横浜市教育文化センター 全員参加型パネルディスカッション「子どもと地域の為に、おやじ汗をかこう」 パネルディスカッション「おやじ！知ってくれ」～携帯電話に翻弄されない子どもを育てよう～ コーディネーター:竹花豊会長 篠原豊氏 パネリスト:越村健市氏、三田村英明氏、山下重喜氏、加藤千二氏 基調講演「学校任せで良いのか。おやじ立ち上がれ！」講師:義家弘介氏 ・豊橋おやじネットワーク発足
2007年 平成19年	・全国のコンビニエンスストアで83運動推進のご協力(ポスター掲示含む) ・子どもたちをバーチャル社会の弊害から守るため、iS インターネット安全運動推進準備 協力:(株)電通CSR室社会貢献部(ポスター、カンパッチ等作成) ・携帯フォーラム・イン千葉「おやじ！知ってくれ～子どもと携帯～」3月4日(日) 於:蘇我勤労市民プラザ パネルディスカッション パネリスト:白石靖氏、西田光昭氏、高原牧子氏、永井正直氏 コーディネーター:藤川大祐氏 ・おやじ日本全国大会及び千葉おやじネットワーク設立大会「～広げよう、千葉おやじの輪～」 6月3日(日)13:00～ 於:千葉県教育会館 全員参加型パネルディスカッション コーディネーター:明石要一氏 パネリスト:廣中邦充氏、井内清満氏、竹花豊会長 アトラクション、事例発表「千葉のおやじはどうする？！～有志は語る～」市川市栗田氏、千葉市白石氏他
2008年 平成20年	・おやじ日本発「iS運動」推進開始 「おやじ宣言～立ち上がれ！おやじ」発信 ・おやじ日本全国大会及び埼玉おやじネットワーク設立大会「～広げよう、埼玉おやじの輪～」 6月1日(日)13:00～ 於:埼玉共済会館 第1部「立ち上がれ！おやじ～子どもを守るおやじの輪～」 第2部 パネルディスカッション「ケータイの今～ケータイは危険？あなたはどうか考える～」 ・「世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会 12月13日(土) 於:おやじ日本事務所

	活 動 概 要
2009年 平成21年	・特定非営利活動法人おやじ日本設立（2月9日法人登記完了） ・「続・世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会 3月14日（土） 於：渋谷区勤労福祉会館第一洋室 ・おやじ日本山形発足 4月11日（土） ・特定非営利活動法人おやじ日本設立記念誌「なぜ今 父親か」発行 ・特定非営利活動法人おやじ日本設立記念大会 「世界のおやじ、日本のおやじ。～語ろうじゃないか、子どもへの思い～」 6月7日（日）13:30～ 於：渋谷C. C. Lemonホール ・おやじ日本広島設立準備会 11月28日（土） ・意見交換会「おやじたちの争点ー学校・家庭そして地域教育」 ーどうするおやじ、子どもの学力向上のためにー 11月29日（日） 於：おやじ日本事務所
2010年 平成22年	・おやじ日本しまなみ設立準備会 1月16日（土） 於：今治市住民センター ・意見交換会「おやじたちの争点ー学校と家庭とのコミュニケーションを深めるために」 2月13日（土） 於：渋谷区勤労福祉会館第一洋室 ・第7回特定非営利活動法人おやじ日本全国大会 「おやじたちの争点ー公教育のあり方をめぐって(学校五日制、塾、部活etc。)-」 6月20日（日）13:30～ 於：渋谷区千駄ヶ谷区民会館 ・おやじ日本広島設立記念大会 7月14日（日） 於：広島県尾道市民センター ・第8回特定非営利活動法人おやじ日本全国大会山形大会 11月6日（土）、7日（日） 第一部：講演「育てたように子は育つ」 パネルディスカッション「未来を開く子供たちをどう育てるか」 於：山形国際ホテル 第二部：トイレ掃除 於：山形県立山形工業高校 ・第33回渋谷区くみんの広場参加 11月6日（土）、7日（日） 活動紹介、アンケート実施 於：都立代々木公園 ・倉敷市立大高小学校おやじの会 83運動推進 ・学校と企業との連携支援準備 ・意見交換会「学校と企業との連携を推進するために」 12月3日（土） 於：勤労福祉会館第一洋室
2011年 平成23年	・意見交換会「おやじ日本会員の言い分」 4月17日（日） 於：おやじ日本事務所 ・第9回特定非営利活動法人おやじ日本全国大会 「学校は社会の変化に対応できているか。そして親は……おやじ日本の問題提起-」 6月5日（日）13:30～ 於：渋谷区文化総合センター大和田さくらホール ・「未来教室」実施開始(学校と企業との連携支援) 9月17日（土） 於：目黒区立東山中学校 ・「未来教室」(学校と企業との連携支援) 平成23年度11校にて実施 ・第34回渋谷区くみんの広場参加 11月5日（土）、6日（日） 活動紹介、アンケート実施 於：都立代々木公園 ・第2回おやじ日本広島大会 一日目：11月29日（土） 基調講演他 於：広島市西区民文化センター 二日目：11月30日（日） おやじの森仕事 於：(有)平田観光農園
2012年 平成24年	・長野おやじの会設立準備会 1月28日（土） 於：長野市第二地区公民館 ・第4回愛知おやじサミットin大口 1月28日（土） 於：大口町民会館 「おやじの子育てー子どもも育つ、おやじも育つ、地域も育つ人づくりー」 ・国税庁長官より認定特定非営利活動法人に認定される。(認定日6月4日) ・第10回認定特定非営利活動法人全国大会 「未来教室」へのお誘い～キャリア教育を広げるために～ 6月24日（日）14:00～ 於：渋谷区文化総合センター大和田さくらホール ・「未来教室」(学校と企業との連携支援) 平成24年度21校にて実施 ・第35回渋谷区くみんの広場参加 11月3日（祝）、4日（日） 活動紹介、アンケート実施 於：都立代々木公園 ・第3回おやじ日本広島大会 11月25日（日） 於：(有)平田観光農園所有の森 テーマ：おやじの森仕事

	活 動 概 要
2013年 平成25年	・第5回愛知おやじサミットin刈谷 2月2日(土) 於:愛知県刈谷市産業振興センター 「確かめ合おう 親子の絆ー親の本音 子の本音ー」 ・「未来教室」(学校と企業との連携支援) 受講児童・生徒数3000名超(平成25年4月現在) ・第4回おやじ日本広島大会 4月13日(土) 於:広島市三滝グリーンチャペル 東日本大震災復興チャリティ「千の音色でつなぐ絆」コンサート ・創立10周年記念全国大会 6月30日(日) 13:30～ 於:渋谷区文化総合センター大和田さくらホール 「広がれ! おやじの輪ー語ろう子どもたちとー」 オープニングアトラクション 渋谷区青少年吹奏楽団(渋谷区内小・中学生・OB 高校生) ヴァイオリン(東日本大震災復興支援～ヴァイオリン・プロジェクト「千の音色でつなぐ絆」～津波で流失した陸前高田のマツや建材から作られたヴァイオリン)演奏 奏者 ヴァイオリン 印田千裕 ピアノ 早川聡美 - 第1部 「広がれ! おやじの輪ーおやじの汗に乾杯! ～」 ・おやじ日本広島「子どもたちに感動を」・豊橋おやじネットワーク「地域へもっと足を運ぼう」 ・太子自然塾「自然体験を子どもたちに」・おやじ日本山形「学校へ出かけよう」 ・おやじ日本「未来教室～学校に社会の風を吹き込もう～」 - 第2部 「これから ～日本の子どもたち～」 基調講演 ダニエル・カール氏(タレント・山形弁研究家) ゲスト ダニエル・カール氏(タレント・山形弁研究家) 早川信夫氏(NHK 解説委員) 牛島正廣(元東京都中学校長会長・おやじ日本正会員) 児童・生徒・高校生、大学生 進行 竹花 豊(認定 NPO 法人おやじ日本理事長・東京都教育委員) ・ニュース・レター創立10周年記念号発行(No15) ・第2回おやじ日本山形大会 11月30日(土) 於:山形市内 基調講演 講師:竹花豊(認定特定非営利活動法人おやじ日本理事長) パネルディスカッション

2008年

■iS運動・アクションプラン発信 (詳細はP22掲載)

iS運動ポスター→

■おやじ日本全国大会～広げよう、埼玉のおやじの輪～



日 時 2008年6月1日(日) 午後1時～4時30分(埼玉共済会館) 参加者 400名

内 容 第1部 「立ち上がれ! おやじ ～子どもを守るおやじの輪～」

基調講演 講師 落合 弘氏(浦和レッズハートフルクラブキャプテン 元サッカー日本代表)

全員参加型パネルディスカッション

コーディネーター 篠原豊氏(おやじ神奈川事務局長)

第2部 パネルディスカッション「ケータイ問題の今 ～ケータイは危険? あなたはどう考える～」

コーディネーター 竹花 豊(おやじ日本会長) パネリスト 新井千晶氏、宮下靖尚氏、伊沢公晴氏、落合 弘氏

■「世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会

日 時 2008年12月13日(土) 午後5時～7時(おやじ日本事務所)

内 容 2009年おやじ日本全国大会のメイン企画の準備企画として実施した意見交換会。

「自身の父親はどんな父親か?」「父親から何を学んだか?」「自分の子どもに何を伝えたいか?」

「日本の父親についてどう考えるか?」などについて、熱く語り合った。

コーディネーター 竹花 豊(おやじ日本会長)

ゲストスピーカー マイケル・プリフォンテン氏(アメリカ) クロス・アンドリュース氏(カナダ)

ミア・モニ氏(バングラデシュ) ジョージ・アブラハム氏(インド)

セルヒオ・アリエル・エスクデロ氏(アルゼンチン) キム・デホン氏(大韓民国)

森田氏(おやじ千葉ネットワーク) 白石氏(おやじ千葉ネットワーク) 他25名



2009年

■「続・世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会

日時 2009年3月14日(土) 午後2時～4時30分 (渋谷区勤労福祉会館第一洋室)

内容 2009年6月おやじ日本NPO法人設立記念大会の準備企画第2弾として2008年12月に続いて実施した意見交換会。

「自身の父親から受け継ぎ、子どもに伝えようとしていること」「日本の父親について」「日本の家庭のあり方について」「母親との関係」などについて、来場した参加者からの質問への回答を交えながら活発に意見の交換した。

写真左から

コーディネーター 脇山幸之(おやじ東京)
パネリスト ロハン・フェルナンド氏(スリランカ)
エドバーク・ヤコブ氏(スウェーデン)
呉念聖氏(中国)
パコーダ・アラッチゲ・ドン・ソーマパーラ氏
(スリランカ)
竹花豊(日本)



■「おやじたちの争点—学校・家庭そして地域教育—」どうするおやじ、子どもの学力向上のために—

日時 2009年11月29日(日) 午後2時～ (おやじ日本事務所)

内容 2010年6月開催予定第7回NPO法人おやじ日本全国大会準備企画第一弾として実施した意見交換会。当日は公立、私立小中学校現役の先生方、各地おやじの会、PTAのパネリストをお招きし、会場全員参加型パネルディスカッション方式で約40名の参加者と共に、白熱した議論が交わされました。

パネリスト: 島田治先生(武蔵村山市立第五中学校教諭)

吉岡正司先生(福生市立第五小学校教諭)

清水武治先生(芝浦工業大学中学高等学校教諭)

白石靖氏(千葉県内おやじネットワーク)

染谷圭一氏(おやじ東京)

辻本篤郎氏(おやじ神奈川)

伊地知伸久氏((社)日本PTA全国協議会相談役)



2010年

■「おやじたちの争点—学校と家庭のコミュニケーションを深めるために」

—話そうじゃないか、おやじ！先生と。学校五日制、塾、部活、ネットワークゲーム問題—

日時 2010年2月13日(土) 午後2時～ (渋谷区立勤労福祉会館第一洋室)

内容 6月20日(日)に開催予定の「第7回おやじ日本全国大会」の準備企画第2弾となるもので、渋谷区委託協定対象事業として実施したものです。今回はパネリストとして、渋谷区教育長池山世津子氏をはじめ、現役公立小中学校の校長先生方をお招きし、約80名の参加者とともに、活発な意見が交換されました。



←パネリストの皆さま 左から

小澤良一氏(渋谷区立富谷小学校長)

大久保俊輝氏(鎌ヶ谷市立西部小学校長)

池山世津子氏(渋谷区教育長)

阿部陽一氏(世田谷区立富士中学校長)

大字弘一郎氏(渋谷区教育委員)

会事務局統括指導主事)



↑約80名の参加者で熱気につつまれた会場

■特定非営利活動法人おやじ日本設立記念大会

世界のおやじ、日本のおやじ。～語ろうじゃないか、子どもへの思い～

日 時 2009年6月7日(日) 午後1時30分～4時30分(渋谷 C. C. Lemon ホール) 参加者 800 名

内 容 第1部 基調講演「おやじの今、そして子どもの未来へ」

講師 デビット・ゾペティ氏 (スイス:作家)

鈴木 光司氏 (日本:作家)

第2部 世界各国のおやじからのメッセージ

出演者:マイケル・プリフォンティーン氏(米国)、田岡 功氏(パラグアイ)、ミア・モニ氏(バングラデシュ)

セルヒオ・エクスデロ氏(アルゼンチン)、清宮克幸氏(日本)、中竹竜二氏(日本)

瀬瀬利彦氏(日本)、坪田知広氏(日本)、ジミー佐古田氏(米国)

第3部 パネルディスカッション「語ろうじゃないか、子どもへの思い」

パネリスト:デビット・ゾペティ氏(スイス:作家)、鈴木光司氏(日本:作家)

ジョン・ギャスライト氏(米国生まれカナダ育ち:ツリークライミングジャパン代表)

ジミー佐古田氏(米国:元ロサンゼルス市警察捜査官)

堀尾正明氏(日本:フリーアナウンサー)、呉念聖氏(中国:早稲田大学客員研究員)

コーディネーター:竹花豊(NPO 法人おやじ日本理事長)

幕開けは、竹花理事長と総合司会の堀尾さんとの
オープニングトーク。

↑ 基調講演の最初は、デビット・ゾペティさん。父親不在で育った経験から、自身のお子さんからは、父親「有在」の判決を得たいと達者な日本語で語りました。

鈴木光司さんは「長女・次女を保育中の10年間に、作家デビューし、ベストセラー作家となった。子育ては、仕事を邪魔するものではなく、小説をレベルアップし、自分を成長させた」と語りました。↓



竹花理事長はコーディネーターとしてパネルディスカッションを盛り上げました。→



堀尾正明さん → はパネラーとしても登場。笑いと会話のある家庭を目指しているがなかなか難しいと明るく語りました。



ジミー佐古田さんは、ご夫妻で登場。4人のお子さんのいる暖かい家庭の様子は、映像でも流されました。



← ジョン・ギャスライトさんはツリークライミング(木登り)ジャパンの活動を映像で紹介。父親を反面教師とした自身の子育てについても熱く語りました。

最後に、正会員が舞台に並び、客席の参加者と一緒に「エイ、エイ、オー！」とこぶしを高くふりあげました。「おやじ、がんばるぞ!」「まだまだがんばるぞ!」の強い思いは、会場一杯に響きわたり、大会は盛会のうちに、幕をおろしました。→



← 呉念聖さんは、3月に行われた「意見交換会」に引き続いてのパネラー。日本の父親に対し、もっとと自然体で子育てに係わろうと呼びかけました。

デビット・ゾペティさん

作家。スイス生まれ。デビュー作「いちげんさん」で1996年、すばる文学賞。日本のテレビ局社員時代、育児休暇を取得した経験から育児参加の講演活動でも活躍。47歳。



◇ 1960年代にスイスで生まれた我々の世代は、「父親不在」の少年時代を過ごしている。父親は外に働きに出

て、母親が家事に専念するという価値観が当たり前。銀行員だった父も例外ではなかった。

だから子供ができたなら、自分のように寂しい思いはさせないと決めていた。子供から「不在」ではなく、「有在判決」を下される父親になろうと。長女が生まれた時、多忙な職場にしながら育児休暇を取得したのも、そのためだった。

とはいえ子育ては楽しいことばかりではない。長女が中学生になった今も受験や部活のこと、携帯電話の使い過ぎなど目を配らなければいけないことばかり。でも、それも子育ての醍醐味。間もなくやってくる反抗期も決して嫌ではない。我が子が子供でいる特別な時間は人生の中でもわずかな間。一緒に過ごせるすべての瞬間を、日本の父親も大切にかみしめてほしい。



鈴木光司さん

作家。代表作「リング」「らせん」はホラーブームの火付け役に。2人の娘の育児経験にもとづいた著書も多数。「文壇最強の子育てパパ」を自称する。52歳。

◇ 欧米に講演に行くと、必ずと言っていいほど、「リング」はいつ書いたのかという質問を受ける。真っ昼間、泣きわめく1歳の長女をあやしめながら書き上げたと言明すると、とても驚かれるのだが、それ以上に日本人の私が昼間から子育てをしていたことに驚く人が多い。欧米では、日本の父親は子育てに参加しないというイメージが強いようだ。

私が育児にかかわり始めた頃に比べ、だいぶ変わってきたが、日本のお父さんが心から子育てを楽しんでいるかといえば、そうは思えないところがある。「子育てって、こんなに楽しいんだ」と、おおびらに言えないムードがあると云った方がいいかもしれない。

私は、このムードをぶち壊したい。それが子育ての楽しさを知る者の責任だと考えている。男同士で「子育てって最高」と、気兼ねなく言い合える時代が来ることを切に願っている。

竹花さん 外国の方々には日本の父親を率直にどのように見えていますか。

呉さん 一般的にコミュニケーションが下手ですね。子供に物事を論理的に説明することが得意でないのかも。それに少し構え過ぎですよ。おやじが立ち上がって子育てにかかわろう。なんていう考え方が、そもそも堅苦しい。もっと肩の力を抜くべきです。

「背中見て育

「おやじ日本」設立5年の歩み

2004年6月	東京・杉並や世田谷の「おやじの会」を中心に「おやじ日本」が発足
06年4月	朝8時と夕方3時の登下校見守り運動「83運動」をスタート。全国展開のコンビニなども参加する大きな動きに
6月	横浜市で全国大会を開催。同市の「おやじの会」などが「おやじ神奈川」を設立
07年3月	子供を巡る携帯、インターネット問題に関する啓発運動「IS運動」を本格化。全国の「おやじの会」に講師を派遣する活動もスタート
6月	千葉市で全国大会を開催。「千葉おやじネットワーク」が設立
08年6月	さいたま市で全国大会を開催。「埼玉おやじネットワーク」が設立
12月	米国、カナダなど海外の父親を招いた意見交換会を初めて開催
09年2月	NPO法人「おやじ日本」に組織変更
6月	NPO化と設立5年を記念する全国大会



熱心に耳を傾ける聴衆

これからは、そんな考え方が重要になるのではないかと考えています。

ギヤスライトさん 父親は親の務めです。

佐古田さん みなさんは、安全だと思われていた日本で、子供の重大犯罪が増えていることをどう思いますか。学校の責任ですか。それとも地域の責任ですか。やはり、その責任から親が逃げることができない。子供が犯罪に手を染めるほど追い込まれてしまいう前に、付き合っている友達でも、部屋の中の様子でも、ちょっとした変化に気付いてやること。これこそ、父親が果たすべき最低限の責任だと思います。

【パネリスト】

大会の模様は、日経・朝日・

堀尾正明さん



フリーアナウンサー。NHKの看板アナとして活躍。明るいキャラクターで人気を集め、08年春に独立。54歳。

ギヤスライトさん



米国生まれ。日本で農学博士号を取得し、コラムニストやレント、障害児支援など多岐で活躍中。46歳。

全国に4000以上ある「おやじの会」の全国連絡組織「おやじ日本」が今年、NPO法人になったのを記念する大会「世界のおやじ、日本のおやじ。」(渋谷区、読売新聞東京本社など共催)が6月7日、東京都渋谷区の渋谷CLUB CLEONホールで開かれた。「子供への思いを語り合おう」をテーマに、子育てに思い入れのある6人のパネリストたちが、約800人の参加者とともに、日本のこれからの父親像について熱い議論を交わした。

NPO法人「おやじ日本」記念大会

竹花さん みなさんが育った家庭で、父親はどんな存在でした？

堀尾さん 父は鉱山師で家にいることが少なく、しかも無口。男は多くを語るものではないという昔かたぎの人で、コミュニケーションが苦手な父と子供の間で、母はいつも苦労していました。その母から、口べたな父への不満を吹き込まれ続けた反動で、アナウンサーなんて職業を選ぶことになってしまったんですけど……。私としてはもっと父親と話をし、楽しい思い出を作りたかったという気持ちが強いですね。

育て」もう古い

ゾペティさん 育児について講演をする、「なんで日本の父親は協力的じゃないのしょうか」と、母親たちから尋ねられる。だから、私は言ってます。日本の父親をダメにしてるのは、あなたたち母親だと。母親が何でもやってあげてしまうから、家庭で何もできない父親が増える。会場の奥さんたちも、もっと旦那さんに厳しくしなちゃダメです。

ギヤスライトさん どういう家族を作りたいのかプランをしっかりと持って、粘り強く実現させることが父親の大切な仕事。その点、日本の父親たちは、とにかくあきらめが早過ぎます。良い父親になれないからギブアップなんて、許されるわけがないですよ。病気になる薬がある。車が壊れれば修理すればいい。で

プで、日本の文化や言葉を学びました。だから私の感覚は、今の日本人からすると古いのかも知れない。でも、古い日本人の感覚も悪くないと思う。子供たちは父親の一生懸命な姿をしっかり見ているもの。昔の日本人が言う「子供は親の背中を見て育つ」という考え方は大切です。



活発に議論するパネリストら

正面向いて相手しよう

竹花さん でも、個人的には、「おやじの背中」という言葉に子育てに背を向けているようなイメージを感じてしまってます。

呉さん かつての日本の父親は意図して背中しか見せてこなかったわけではなくて、あまりに仕事で忙しくて、家庭には背中しか向けられなかったということではないでしょうか。今の若い父親は子育てや家のことを少しは考えて、マシにはなっているけど、もっと家族に顔を向けた方がいいと思いますね。

ゾペティさん 「おやじの背中」という言葉には日本男性の美学があるのかもしれない。それでも、おやじの顔や見えるはずですよ。

弱いところも見せよう

竹花さん 家庭の中で、父親が子供に対して果たすべき最低限の責任とはどんなものでしょうか。

堀尾さん 社会で生きる力をつけてやることや、果敢と、自分も弱い人間だし、だらしないんだと。威厳のあ

【コーディネーター】



竹花豊さん



ジミー佐古田さん



呉念聖さん

売よみくらベサイト「あらたにす」(<http://allatany.jp>)にも掲載しています。

「おやじ日本」理事長。元東京都副知事、警察庁生活安全局長。退官後はパナソニックの役員。現・東京都教育委員。60歳。

日系3世の元ロサンゼルス市警捜査官。「ロス疑惑」事件の日米合同捜査を指揮したことで知られる。73歳。

中国生まれ。早稲田大学客員研究員。日中の文学、文化を比較研究する一方、「子育てにも自信あり」。60歳。

■ 第7回 NPO 法人おやじ日本全国大会

「おやじたちの争点—公教育のあり方をめぐって(学校五日制、塾、部活etc)—」

日 時 2010年6月20日(日)午後1時30分～4時30分 (渋谷区千駄ヶ谷区民会館)

内 容 ビデオ上映

公立学校、私立学校に進学させた保護者のインタビュー

会場全員参加型パネルディスカッション

「公立学校の現状と課題について」

パネリスト: 浅田 和伸氏 (品川区立大崎中学校長)

大字 弘一郎氏 (渋谷区教育委員会事務局 統括指導主事)

布村 幸彦氏 (文部科学省スポーツ・青少年局長)

森上 展安氏 (森上教育研究所所長)

竹花 豊氏 (NPO法人おやじ日本理事長)

コーディネーター: 早川 信夫氏 (NHK解説委員)

映像はインターネット上にて公開中です。是非ご覧下さい。(URLアドレスは下記に掲載。)



↑会場と同時にたくさんの方々が入場され、会場はすぐに満席になり、立ち見も出るほどでした。当日はインターネットでリアルタイムに映像を配信しました。



多くの皆さまがアンケートにご協力下さいました。ありがとうございました。



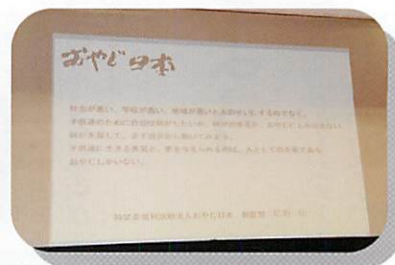
↑来場者の方々にご協力頂いたアンケートの結果が休憩後に発表されました。担当スタッフが集計作業中



↑参加者からの意見が次々と…
予定の3時間を超えても熱い議論が続き
会場は熱気に包まれました。



↑渋谷区長 桑原敏武氏
ご挨拶を賜りました。



↑星野仙一顧問からの応援メッセージを紹介

記録映像URL→

「第7回おやじ日本全国大会 1」<http://www.ustream.tv/recorded/7780196>「第7回おやじ日本全国大会 2」<http://www.ustream.tv/recorded/7781900>

多彩な顔ぶれのパネリストの方々がご出演下さいました！



品川区立大崎中学校長 浅田 和伸氏
地域、PTA、おやじの会のメンバーなどの力を借りてみんなで学校をよくしていくことに取り組んでいる。外部の力を借りることにやや慎重であった学校がずいぶん変わってきている。文部科学省にて教育行政に携わった経験と教育現場にて日々感じている思いを語って下さいました。



渋谷区教育委員会事務局
統括指導主事 大字 弘一郎氏
教員、副校長、教育委員会といろいろな立場に立たれた経験から、今の公立学校の現状をお話し下さいました。学校、先生も限界があることを知り、専門家、地域、PTA の協力を得て子ども達と向き合うことの大切さを語られました。



文部科学省スポーツ・青少年局長
布村 幸彦氏(おやじ日本正会員)
学校として具体的に困っていることを地域の方々に積極的に発信していただきたい。コミュニティスクールなど学校と地域との連携強化が公立学校には不可欠であり、行政としても地域の方々と一緒に先生、学校を支えていきたいと語られました。



コーディネーターは

NHK解説委員 早川 信夫氏
教育委員会が悪い、文部科学省が悪いと言っているだけでは始まらない。先生や学校を支えるおやじの役割、地域の役割があるのではないかとということが議論を通じて浮かび上がってきたのではないかと語られました。短時間で盛り沢山の議論をみごとに、まとめて下さいました！



森上教育研究所 森上 展安氏
私学受験の現状をデータにてご説明下さり、私学と比べ公立学校は情報発信の仕方に工夫が足りないのではないかと、おやじが家庭や地域にもっと関わっていかないと公立中学も私立中学もよくなりえないのではないかと語られました。



← それぞれのご家庭でのおやじとしての立場についても語られたパネリストの皆さま



NPO 法人おやじ日本

理事長 竹花 豊

様々な問題は何が原因なのか。今の子どもたちの置かれている状況に皆で危機感を持ち、問題を一つひとつあいまいにしないで解決していくことが大事であり、大人社会が逃げてはいけないう。大人の真剣さが問われていると会場に呼びかけました。



第7回全国大会にご協賛賜った皆さま（プログラム掲載）

赤枝六本木診療所 アサヒ交通(株) (財)アジア刑政財団 一越観光(株) (株)NKSデータ
(株)エンデバーツカコシ (株)オオコシセキュリティコンサルタンツ (有)カーサ・テラー 加賀電子(株)
加賀ソルネット(株) キャピタルモータース(株) 共立印刷(株) (株)黒沼共同会計事務所 三幸交通(株)
渋谷ビル経営者協会 昭栄自動車(株) 省東自動車(株) 杉並交通(株) (社)スコレ家庭教育振興協会
ストップ・ガン・キャラバン隊 すばる交通(株) 全国読売防犯協力会 太陽自動車(株) 大洋自動車交通(株)
ダイヤ交通(株) つくば観光交通(株) つばめ交通(有) (株)テレビ東京ミュージック 東京協同タクシー(株)
東京交通興業(株) (株)東京交通新聞社 東京コンドルタクシー(株) 東京都個人タクシー協同組合
東京都個人タクシー交通共済協同組合 都営協板橋支部 日個連東京都交通共済協同組合
日個連東京都営業協同組合 日日交通(株) 日本カーライフアシスト(株) (株)日本経済社
パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株) 春駒交通(株) 日立自動車交通(株) ビックホリデー(株)
広島中央ロータリークラブ 不二交通(株) 富士自動車(株) 府中観光交通(株) (株)ベーシック
保険情報サービス(株) マコト交通(株) 右田・深澤法律事務所 (株)宮本企画 (株)読売新聞東京本社
(株)リード (株)ローソン
(五十音順)

その他多数の個人の皆さまのご協賛も頂きました。厚く御礼申し上げます。

読売新聞、NHK 等で大きく報道！

学校教育の今 おやじが激論



「おやじ日本全国大会」が「父の日」の20日、東京都渋谷区で開かれた。

7回目の今回は「今どきの学校教育を考える」がテーマ。会場の千駄ヶ谷区民会館には父親や教員ら345人が詰めかけ、品川区立大崎中の浅田和伸校長ら5人のパネリストとパネルデ

イスカシジョン形式で議論を交わした『写真Ⅱ』。

大会では、「教員が学力低下に無関心」などのアンケート意見に対し、男性教員が「多忙な教員の実情を知ってほしい」と反論する場面も。これに対し、大会を主催した「おやじ日本」の竹花豊理理事長は、「教員

が忙しいという問題は今の解決できていない。大人は、学校が抱える問題を真剣に解決することが大事だ」とよく語った。

終了後、小学生の男子児童2人の父親で杉並区の会社員内藤雅彦さん（45）として「一人の『おやじ』」何ができるのか考えるいい機会になった」と話した。

平成22年6月21

平成22年6月21日 読売新聞

荒れる学校「おやじ」の出番

『今どきの学校考える』シンポ

全国の各地の「おやじの会」の支援組織「おやじの日」が今年20日、7回目となる「おやじ日本全国大会」を東京都内で開く。今年のテーマは「今どきの学校教育を考える」。公教育が抱える様々な問題や大人の責任について、現職の中学校長や有識者がパネルディスカッション形式で熱い議論を交わす予定だ。

2008年度に全国の小中学校で起きた児童・生徒による暴力行為は過去最悪の約6万件。経済の低迷で貧困層が拡大し、家庭の教育力が低下した結果、学校現場が再び荒れ始めている。女性教諭への暴力は、その象徴だ。

「公立校の学習環境の悪化」

20日、都内で



「授業がうまくなれば、生徒たちも暴力を振るわなにかもしれない」

大会のパネリストの1人で、森上教育研究所の森上慶安所長の公立中学の女性教諭からそんな相談を受け、驚きを隠せなかった。女性教諭は、この学校に赴任しても生徒から暴力を受け、同僚たちからは見て見ぬふり

めは何をすべきか。大会では、参加者の皆さんと方策を考えた「い」と抱負を語った。

パネリストは、ほかに「おやろ省のキャリア官僚から転身した浅田和伸・品川区立大崎中学校長ら4人が務める。

大会は20日午後1時〜4時半、渋谷区千駄ヶ谷区民会館で。入場無料で誰でも参加できる。問い合わせは「おやろ日本」(03-3462-7113)

平成22年6月10日 読売新聞

平成22年6月28日 日本教育新聞
↓平成22年6月19日 読売新聞

大人の責任を要する
まず、おじ・全国会
全国各地のおじの会
の組織。おじ日本
は、20日都内開く。お
じ日本開会の様子
をインターネットで生
中継。おじ日本は、
入場無料。当日の飛
入参加可能。問いわ
けは、おじ日本03-
3462-7113。

平成22年6月28日 日本教育
↓平成22年6月19日 読売新聞

学校は、もっと「おやじ」を使え

「父の日」の20日、全国の「おやじの会」の会員で構成するNPO法人「おやじ日本 理事委員」竹花豊と東京都教育委員会が都内で全日本を主催した「雪割、紫雲菊から」は、「学校ばかりとおやじの会を利用してほしい」という声が上がった。7回目となった今回のテーマは「今どきの学校教育を考える」。公立学校の現状について意見を交わすとともに、家庭や地域を支えるおやじが今後どの学校にかかわっていくかについて、

に大会
の国大
の日全

パネリスを交
えて議論した。
来場した人を
対象に行ったア
ンケート調査では、新学
習指導要領の全面実施に伴って授業内容や授業活動量の増減、部活動指針などに対する不安の声が多かった。

こうした結果を踏まえて、来場者からは公立学校の独立と外部への発信を強めるべき「一風変わった」力を出して、学校側にはなかなか受け入れられない」と厳しい見も出ている。

次回の全国大会は、本年6月7日に市形市内山形国際ホテルで開催予定。

第9回 NPO 法人おやじ日本全国大会開催！ 「学校は社会の変化に対応できているか。そして親は・・・」 ～おやじ日本の問題提起～

2011年6月5日(日)、渋谷区文化総合センター大和田さくらホールにて開催した「第9回NPO法人おやじ日本全国大会」は約550名の方々にご参加頂き、2階席を急遽、開放するほどの盛会となりました。当日の様子は、おやじ日本ホームページにて公開中です。(ビデオ上映第1部は除く)是非ご覧下さい。(おやじ日本ホームページ <http://oyaji-nippon.org>)

ビデオ上映 第1部 作家の村上龍氏と竹花豊おやじ日本理事長が対談

「かつてのように個人を守るものがごとく制度疲労しているとき、一番基本は何だろう。
大人になるということは、自分の力で生活していくことなのだ。」

2003年11月に出版され100万部を超えるベストセラーとなった村上氏の著書「13歳のハローワーク」。
対談は著作の動機からスタート。



村上龍氏談(抜粋)

高度成長の時代には、職があり、人手が足りなかった。なるべくいい教育を受けて、なるべくいい学校に行き、なるべくいい会社に入るという強力なロールモデルがあった。90年代以降、バブルが終わり、企業の体力が落ちて、一括で大量の新入社員を採ることがなくなったり、よりスキルや能力の高い学生を採るようになったりして、働き口がない。社会構造や産業構造が変化しているにもかかわらず、子どもに求めるのがいい学校、いい大学、いい会社なのです。親、教師、社会側でどういう大人にすればいいのかということが語られていないし、ひょっとしたら考えられていないかもしれない。

かつてのように個人を守るものがごとく制度疲労しているとき、一番基本は何だろう。大人になるということは、自分の力で生活していくことなのだ。稼ぐためには職業に就かなければいけない。いまは昔と違って職業はたくさんありますよという本をつくろうと思った。



対談記事をご覧になりたい方は事務局までご連絡下さい。

ビデオ上映 第2部 おやじ日本会員の言い分

上映後、「おやじの会のイメージが変わった」等、高い評価を頂いた第2部の「おやじ日本会員の言い分」。大学を卒業したばかりの青年から、戦争を体験し、時代の変化を経験してこられた会員まで、実に多様な方々が参加しているおやじ日本ならではのビデオ。学校教育や社会について本気のおやじたちの「言い分」が語られました。



「おやじ日本会員の言い分」一部抜粋

- ・私は、小学校に行き、校長先生と話をした時に、通知表を開いて、「右側が生活態度、左側が国語、算数とありますけれども、まず、私は右側を見ます。国語、算数は良いでなくていいから、生活態度を良いにしたい、と子どもに話しています。」と言ったら「今時珍しいお父さんですね。」と共感されました。
- ・大学で学んだ学問ソーシャルイノベーションを活かして何か社会に変化を起こすことをやっていきたいと思った時、僕の学んだ学問に入る範疇の企業はほとんどなく、就職活動はしませんでした。
- ・今までの画一的な単一的なものさしは違ってたんじゃないかと、多くの人が気がつき始めているんだけど、今までの惰性があるから、何となくゆっくりしたいんじゃないかなと。半分は分かっているんだけど、半分は今まで自分で持ってきたものでやろうとして、より良いところに行きなさい。そういうものは、あるような気がしますね。
- ・生きる力は好奇心と忍耐力。子どもの頃からいろんな経験を自分たちでして小さな成功を少しずつ積み重ねて、小さな失敗を一杯積み重ねてもらいたい、そういった事を子どもたちにやらせてあげられる大人社会でありたい。失敗はすごく大事。

多彩なパネリストが熱いパネルディスカッションを展開！

～教員を目指す若者から「日本を背負って立つ」宣言が。～



精神科医 岡田 尊司氏

今の子どもたちに接していると、社会的能力がうまく育っていないことを痛感する。子どもたちの個々の特性を生かせるようなかたちで、自立できるための職業教育を連続的につなげていく仕組みが必要である。



文部科学副大臣 鈴木 寛氏

学校、家庭、地域、おやじの会、企業等が社会の変化に対応する教育環境を整えたいと頑張っている。さらに、うまく連動できるよう、全国に広がりつつあるコミュニティスクールで活躍する父親、おやじたちの活躍に期待したい。



日本航空株式会社 柿沼 智洋氏
CSR活動の一環として学校への出前授業等を行ってきた。その中で学校の勉強がどのように社会で役に立つのか教えていくことは有意義だと実感している。現状では、先生方との連携のあり方が課題と感じている。



コーディネータは

NHK解説委員 早川 信夫氏

東日本大震災が今の学校や教育のあり方に一石を投じていると問題提起され、熱いパネルディスカッションをソフトにリードし、盛り沢山の議論を見事にまとめて下さいました。



←
熱気に包まれた
満員の会場



NPO 法人おやじ日本理事長

竹花 豊

社会の変化に対応した教育のあり方を、まず大人達が感じ取り、子ども達に伝えていくことが大切。身近にいるたくさんの大人達が子どもたちと積極的に関わっていくためには、学校という場が重要な舞台となる。学校にはもっと頑張ってもらいたいとエールを。



会場からの意見に耳を↑
傾けるパネリストの皆さま



東京学芸大学教職大学院生

富士本 陽平氏

就職活動で、学校で学んできた勉強が社会でどのようにつながっていくのか疑問に思ったことや、知識だけでなく、コミュニケーションスキル等の習得の大切さについて考えさせられた。教育環境の現状に問題意識を持つことが大切である。



東京都中学校長会長 三町 章氏

学校は社会の変化に対応するべく変わっていかねばならない。そのためには、来年度から始まる新教育課程の中で地域、企業等の外部の方々の力をどのように活かしていくかを確実に検討していきたい。



東京学芸大学教職大学院生

柳 桂子氏

今の学校では、学力のみが重視されているが、社会に出る時にはソーシャルスキルなどの要素も重視されるように思う。学科以外のところも評価する教員を目指したい。

平成23年6月21日 内外教育

●「おやじ日本」全国大会

「またいい大学」「いい企業」

理事を務めていた竹住氏は、昨年の大会での議論を踏まえ、「時代が急激に変化しているのに、学校も親も大人社会も、このまが分かつていない。その結果、子供がうまくなつていないのではないかと問題提起した」。

その後、議論のきっかけにするため、作家村上龍氏のビデオが上映され、会員による座談会がその後のデモンストラートとして行われた。

この中で、「13歳のハーローワーク」などの著書もある村上氏は、「日本の社会全体が、子供を育ててくれる役割を失っている。バブル経済が崩壊したから、社会制度や産業構造が変化しているにもかかわらず、子供に与えられるのは、いっさい高い。いい大学、いい会社、しかる会社に入つて

ドバイスをするよりも、「こせかには自分で考えなければいけない」というメッセージを伝える重要性を強調した。

その後、パネルディスカッションが行われた（写真）。パネリストは、精神科医で小説家の岡田尊司氏、日本航空客室教

た。

その上で平川氏は、2009年度の高校受験者が、依然として約5万人人を数えることを紹介しながら、「母会に頼るのか中退者を出さず、この先のくらひに人数を減らすか一方、当面の崩れのように高校に進学する生徒に間はないのか」として、学校と家庭の課題、学校と社会をどうつなげていく、議論の場をどう提案したい、続いて、若手代表として学生と先生が発言、知氏は今の社会は「生きざかり」の3番巻であり、学力だけを重視している。学力以外の評価対象もあれば、若手「自己肯定感も高まっている」はなかば、と指摘。富士子氏は「勉強と、自分が得たいもの」とが、つながっていると感じる。親教教師の指図も、なぜ勉強しなさいが、得た」と言及しながら、なぜ勉強しなさいが、得た」と

— 8 —

育、文部科学大臣の鈴木寛氏、東京大学学長
風入院長の土本陽氏と柳井氏、東京都中
学校校長 齋野7人、NHK解説委員の三野
氏、竹花氏、7人、立川組組長の早川
氏が、コデネターをを務めた。
最初に早川氏が「東日本大震災に関わらな
3
カ月、避難している人、とりわけ、子供
や老人たちを支援して来た。今、この震災は、
学校教員の力でも、一石を投じているよう
に思ふ。ポラテアが活躍する若手高生や、地域
士にはある学校の姿も浮き出て来た」と掛け
て、学校と社の関わりを活性化を訴へ掛けた。

う生きののか、といふことは聞かされたことはなかつたといふ事だが、それより、自分から聞かされた時には、勉強が社会でうまうまの食を感ぜられるような事だと思ふべきではない、と勉勵を受けた。これを以て三町は、校内外の問題化してゐた時の子供たちは得たの學や希望を保持しておらず、進路指導を体系的に行なへなければならぬと実感した。現在でも「得たを見逃した上での社会的・職業上に向けた進路指導について、幼稚園、小、中学校、高校、大学、中学校の各段階を通じて、お互い協力して行なうなければならない」と述べ、参加者にも理解を求めた。

橋田氏に呼ばれた主な広報部に所属し、中・高校の教育行政活動も担当。「実際に、出航授業の相談に行くと、担当の先生方が「企業側」へ何しに行くか、よくかかつていない」云々によく遭遇する」と苦言を述べた。

岡田氏は、医療専門学校や病院の恩恵.getExternalに多く遇する」と苦言を述べた。

この診療を基に「前者の社会的効力がうまうま育つていゝのは、われわれ日本人の自己の責任感、効力が贅いゝためにはないか」としながらも、今回などの大規模を契機に、社会的耐性や社会、公共的なことを大規模で、垣根から意識的に育てていく必要を強調。その上、個々の「供の特性に合わせた教育を行う」ことを、訴へた。

阪神・東路大震災と工業社会の崩壊を感じて「通商教育者（当時）をオケメとしたと喜ぶ木村大樹氏」。教育や社会の現状をコメントした例として、パナ

2011年（平成23年）6月21日 内外教育 第17号

フは物づくしで頑張っているのに、ある人はモーツァルト、ある人はベートーヴェンなど、全体もよく、あらゆるこの世の善悪を断り切りたい子と合せて、好循環をつくって、いけば社会はよく

と分析。

それが構造的な表例として、受験と就職活動を挙げ、自ら構想しくりとに携わった「ユニティ・スペース」などの「道々」として通へんという教育環境「竹花」を加えていくべき意義を強調した。

竹花氏は、警察少年リアとして、青少年問題に取り組んできた経験から語って、親がだれでも取り組んでいかなければならぬ、一人前の社人として送り出すのが大人の責任」と述べるとして、教員員の立場から「学校に必要とされる価値を持つて、先生方が非常に忙しく、世の中でのいろいろな問題が持ち込まれてアツアツアツしている」とその事実だと指摘、学校と企業の関係性を点めながら、お互い理解を深め、学校問題の姿を明らかにしながらも、具体的支援につなげていくことを提案した。

学校での指導にも改善の余地

高木氏は学部卒業生に行なったミニユニティシフトで「社会では、知識よりコミュニケーションスキルやプレゼンテーションのスキル、自分自身を深く探求することが求められる」と思う。学校はなかなか学べなかつた集合があると述べる。

岡田氏は「学校の若手実習生が、ミニユニティシフトの先生への受けいれ方が悪い」とソーシャルスキ

ルレレーニグをする、と、2、3日の合面でも表情が生き生きと、表現も豊かになる。学校でレレーニグすれば、子供はすぐに変わるはずだ」と。

早川氏は、学校と社会のつながりについて、パナソニックに水戸向けと、樋沼氏は、飛行機の離陸には向かいが必要となど、樋沼朝雄を通過する際には機体は揺れることなどを例に、中核を通過する勉強は社会に出てから生かされるを強調、三河は勉強は学校現場で代表して、「教科書を見てもらう」と、コラムや「寄稿」などで、字内内容が的中とつながり、生かされているが書かれています」と説明した。

竹野氏は、社会の固定観念を考慮しながら、竹野氏は、と問いつける。と、岡田氏は「親は社会が安定的に発展した中で育ってきたが、(当時の)成功パターンが通用すると思いがちだ」として、子供に目の前の時代の価値を持っていけいという戒めした。

鈴木副大臣は、最近の保護者が学生の就職先として、「一部大企業と」うだけで満足して、コマシマルとせよ放散して居るなどの有名な企業なことを得ない風潮を紹介して、中核を「大企業こそは得ない」という一つつくつて差というのみにするところ卒業し、自分の体験や子供のコミニケーションなど得た一ツ情報告が加えながら、自分なりの考察をし「天才的な」といって、と述べた。

(渡辺 孝司)「教育ジャーナリスト」

おやじ日本全国大会

平成23年6月20日
教育家庭新聞

の姿がたゞ今日、家庭や学校で、父親はと子ども達に求められたい人材を伝ふことが必要ならば、第9回NPO法大会や日本全国大会では、この間期開催された東京・豊谷6月日、学校の社会の要化として、三「を」を手に竹笠をかいてゐる。そして親はおじ日本事業、鈴木寛・文相閣議、三司や企業・事出者、教職を自ら大事業生による、ネットカシジョン開帳、会場から寝転んで居る児童を見

若者代かたは私に上界きながら言れるがそれは論し、一学校の離が社会に出ようとする経験が企業はミ二ゲシーン求る。我を探する力なれど、たの意見

これは精神病的の尊司氏が、促果は社会的な能力有だが、今は後には格力を失くす時はなかつていふこと必要はな

かゝ提案。

鈴木には、校
長の席から今
年度から「ゼミ」
熱議に取り巻
ほか、教員誰の
力キニラムロ
ミニケーシジ
ミキルを極付た
い。竹花はも
つと意見を人が校
で語る。学校
をより開放し、学校を交
なす支える。組長を極
語られた。

平成 23 年 6 月
教育家庭新聞

活発な討論が行われた



「社会への対応」
主題に全国大会
おやじ日本
特定非営利活動法お
やじ日本 東京都支部、
竹花豊理事は、5月
9日国となる八国大会を
同日で開いた。学校
は社会の変化に対応でき
ているかそして親は「お
やじの会」の構成員や
TA役員などが参加し
ながら、

町章 東京都学校長会
会長（新宿区立西早稲田
中校）は、「指導内容
は変わってきている。来
年度から使う教科書に
は、世の中との関わりが
書かれている」（おや
じの会）と語った。当日は、

平成 23 年 6 月 27 日

全国各地にある「おやじの会」

本「渋谷区」の全国大会が5日午後一時半から、渋谷区桜丘町の同区文化総合センター大和田で開かれる。大会の様子は、インターネットの動画配信サービス「ユー・ストリーム」でも中継する。

岡田厚司氏や文部科学省の鈴木寛
副大臣、おなじ日本の竹花照熙
事長、中学校長や若者らが議論す
る。

当日参加可。資料代300円が
必要。問い合わせはおなじ日本(03
・3462・7113)へ。

平成 23 年 6 月

9 回目となる今回のテーマは「学域と新の役割などについて活発な議論を交わした」写真Ⅱ。

平成 23 年 6 月

と、2010年時点での二

トは60万人に達し、若年層（15～34歳）の2・1%を占める。

パネリストの一人で、「なぜ日本の若者は自立できないのか」（小学館）などの著書で知られる。

を育てるとい

姿を学校が取

ついて、参加

えたい」と話



司氏「写真」は、「人間教育本来の、戻す方策にどうにも考へている。」

でき、資料代として3000円が必要。問い合わせは「おやじ日本」(03・3462・7113)へ。

人の姿をすべての子供に見せたい。学校はその重要な舞台になる」と締めくくると、会場は拍手に包まれた。

第10回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会開催！

平成24年6月24日(日)午後2時より、「未来教室」へのお誘い〜キャリア教育を広げるために〜をテーマに、渋谷区文化総合センター大和田さくらホールにて開催され、500名を超える方々にご参加を頂き、盛会となりました。

第1部では、会場全体を学校の教室に見立て、参加された方々を生徒として、4社の企業講師が授業実演(ダイジェスト版)。また、第2部では、「信頼され魅力ある公教育を確立するために」をテーマに、パネルディスカッションが行われました。なお、大会当日の映像はおやじ日本ホームページにてご覧いただけます。(URL <http://oyaji-nippon.org/>)



↑オープニングはNHK解説委員
早川信夫氏と竹花理事長

第1部 ようこそ「未来教室へ」

おやじ日本「未来教室」にご協力下さった学校の先生方や企業講師の方も会場から授業の感想や子ども達の様子等、示唆に富んだご発言を頂きました。

読売新聞東京本社徳毛貴文氏と千葉大学学生の城亜美氏お二人による授業実演。テーマは「インタビューをしよう」↓

→「鉄道と情報そして環境」をテーマに授業実演をする東日本旅客鉄道(株)持立雄也氏



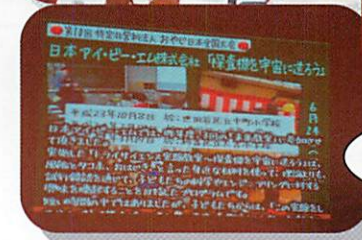
→ 東レ(株)金森麻理子氏による「水のろ過と地球環境」を考える授業



↑(株)NHKメディアテクノロジー柴田智英氏、村山至氏による授業実演。「3D って？」



↑ ワタミ(株)中川直洋氏がスクリーン映像を紹介しながらご発言



日本アイ・ビー・エム(株)塚本亜紀氏、全日本空輸(株)石島好子氏のメッセージをスクリーンでご紹介

第2部 パネルディスカッション 「信頼され、魅力ある公教育を確立するために」

多彩な顔ぶれのパネリストの方々にご出演下さいました！

第2部パネルディスカッションのコーディネーターはNHK解説委員の早川信夫氏。パネリストの皆さまの熱い議論や次々と手が挙げた会場参加者の意見、質問を見事にリードして下さいました。会場から時間延長の提案が出るほどの白熱した議論が展開されました。



千葉大学学生城亜美さんは学生としての視点から発言↓

←パネリストと来場者、熱く、活発な意見が交わされた会場

コーディネーター・パネリストの皆さま

ご多忙の中、ご出演ありがとうございました！



早川信夫氏
NHK 解説委員

特別なことではなく、誰もがまねをできるモデルができることが必要だと感じた。今日の議論を踏まえて各地で様々な動きが出てくることを期待したいと述べられました。



北城格太郎氏
日本アイ・ビー・エム(株)相談役
中央教育審議会委員

国際基督教大学理事長
偏差値ではなく、自分で考えて行動する子を社会は求めている。学校と社会のギャップをうめるためにも企業が学校に出向き子ども達、先生と対話することの必要性を強調。



浅田和伸氏

文部科学省大臣官房
教育改革調整官

前品川区立大崎中学校長
学校は教育の充実のため企業やNPOと積極的に協力関係を結ぶべき。学校として子ども達にどういう力を育てたいのか、そのためにどういう協力を求めたいのかをはっきり伝えることが信頼につながる。うまく使えば効果は大きい。



竹花豊

認定 NPO 法人おやじ日本理事長
東京都教育委員

子どもの問題について具体的に解決していくことが大事。実践されなければ大人の責任を果たすことにならない。学校に企業などの外部からの風を入れることが大切。おやじ達が実践しようと呼びかけました。



藤川大祐氏

千葉大学教育学部教授
NPO 法人企業教育研究会
理事長

NPO を立ち上げ学生達を学校に派遣している。社会で活躍する人が学校で学んだ知識を生かしている姿を見せることの意義を強調。「未来教室」のような授業を継続的に子ども達に経験させることが重要。

全国各地の「おやじの会」の支援組織「NPO法人おやじ日本」の全国大会が24日、東京都内で開かれる。10回目の今回は、「キャリア教育」がテーマ。同法人が実施する出前授業「未来教室」の実演やパネルディスカッションが行われる。同法人は昨年、小・中学校に社会人講師を派遣し、働くことの魅力、厳しさを伝える取り組みを行っている。パネルディスカッションでは、北城格太郎

「おやじ日本」 あす全国大会

・日本IBM相談役らが、社会性を育む学校教育のあり方をテーマに議論する。
おやじ日本の竹花理事長は「キャリア教育をどのように広げることができるか」と話している。
大会は24日午後2時～4時半、渋谷区文化総合センター大和田「さくらホール」で開催。資料代200円。当日参加可。定員500人。問い合わせは、おやじ日本（03・3462・7113）へ。

平成 24 年 6 月 23 日
読売新聞

全国の「おやじの会」の支援組織「NPO法人おやじ日本」の全国大会が24日、東京都内で開かれる。10回目の今回は、「キャリア教育」がテーマ。同法人が実施する出前授業「未来教室」の実演やパネルディスカッションが行われる。同法人は昨年、小・中学校に社会人講師を派遣し、働くことの魅力、厳しさを伝える取り組みを行っている。パネルディスカッションでは、北城格太郎

**「働くとは」
オヤジ語る**

4社が授業を実施した。日本IBM相談役らが、社会性を育む学校教育のあり方をテーマに議論する。おやじ日本の竹花理事長は「キャリア教育をどのように広げることができるか」と話している。大会は24日午後2時～4時半、渋谷区文化総合センター大和田「さくらホール」で開催。資料代200円。当日参加可。定員500人。問い合わせは、おやじ日本（03・3462・7113）へ。

竹花 社会で求められる力や資質を育むために、企業と学校が連携して取り組む必要がある。おやじ日本は、企業と学校をつなぐ役割を果たしている。未来教室の実演やパネルディスカッションを通じて、子ども達に働くことの魅力を伝えることが大切。おやじ達が実践しようと呼びかけました。

大会に寄せられた文部科学大臣の励ましのお言葉

第10回おやじ日本全国大会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

これまで、「おやじ出版だ」を合言葉に、83運動、iS運動をはじめとする子どもたちへの支援活動及び企業と学校を結ぶ未来教室の開催を通じたキャリア教育の充実をはじめとする幅広い取り組みに深く敬意を表します。

おやじ日本の益々の御発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成24年6月24日
文部科学大臣 平野博文

ありがとうございました！

平成 24 年 6 月 25 日読売新聞

おやじ日本広島

●第1回おやじ日本広島設立記念大会

平成22年7月14日(日)、広島県尾道市民センターにて「おやじ日本広島設立記念大会」が開催されました。おやじ日本からも竹花豊理事長をはじめ、5名が参加しました。当日は、シンガーソングライターあどRUN太さんの「おやじ日本」の歌に始まり、竹花理事長による基調講演「青少年問題と大人の責任」の後、「広島の子どもたちがすくすくと育っていける環境作りについて」というテーマの基にパネルディスカッションが行われました。広島のおやじ達の熱い思いが溢れる大会となりました！



●第2回おやじ日本広島大会

平成23年10月29日(土)、広島市西区民文化センターにて「第2回おやじ日本広大会」が開催されました。鍵山秀三郎氏による基調講演「一つ拾えば、一つだけきれいになる」の後、「広島暴走族問題に立ち上がったおやじたち」というテーマで、鍵山氏と竹花理事長の対談、「広島子どもたちがすくすく育つ環境作り」というテーマでパネルディスカッションが行われました。出演者、参加者、一体感のある演出で 500 名を超える満席の会場は、熱気に包まれました。大会二日目は「オヤジの森仕事～里山の手入れを通して、人と自然とのかかわりについて学ぼう～」が(有)平田観光農園にて開催されました。



●第3回おやじ日本広島大会 おやじの森仕事平成24年秋季大会

平田観光農園をお借りして 里山の手入れ作業を体験子どもの将来を考えつつ 日本の森林を再生していこう

日時:平成24年11月25日(日)午前9時30分～ 場所:(有)平田観光農園所有の森

内容: 森仕事…チェーンソーやのこぎりで伐採、鍬やスコップで遊歩道作り、休憩所仕上げ

講演…「里山整備の大切さ」講師:鍵山秀三郎氏(日本を美しくする会相談役)

記念行事…休憩所落成祈祷:堀川寛氏(おやじ日本広島代表)

テントオープン…鍵山秀三郎氏、平田克明氏((有)平田観光農園代表取締役会長)、竹花豊おやじ日本理事長

記念植樹…鍵山秀三郎氏、平田克明氏、竹花豊理事長、堀川寛代表



三次で市民グループ

子どもの健全育成に努める市民グループ「おやじ日本広戦」(広島県西部)は25日、三次市上田町の平田観光農園に遊歩道と休憩所を完成させた。社会貢献に汗を流す親の姿を子どもに見せる狙いもあり、2年がかりで仕上げた。(重田広彦)

おやじが汗農園整備

「頑張るおやじ」

たこととこ

同僚作業を体験する親子連れ

轉を出した。

メンバールは約一年半前から、約1名の雜木林伐採の目的、丸太を出すついでに、木の枝を取り除いたりして遊歩道に休憩所を完成させた。メンバールに加えて、家族連れら約0人にも参加した。

「おやと目土鹿」の
内政事務局長88は「おや
と目土鹿」の
後にはリー・ハズなど
く予定で、子供が楽し
遊べる場所になるよう
を統括していきたい」と話
した。（長夫生）

子どもの遊べる森に
三次、「おやし日本広島」が整備



平成24年11月26日中国新聞

●第4回おやじ日本広島大会開催！

東日本大震災復興チャリティー「千の音色でつなぐ絆 コンサート」

日時:平成25年4月13日(土)午後3時～ 場所:三滝グリーンチャペル

内容:津波で流失した陸前高田のマツや家屋から作られたヴァイオリン。

10年かけて千人がリレー演奏するプロジェクトが展開されています。

演奏を通して被災地への思いをわかちあい、記憶を風化させないために…

～広島発のコンサートは被爆ピアノとのコラボレーション～

演奏:津田芳樹(ヴァイオリン) 津田典子(ピアノ)

演目：春の海、ふるさと、からたちの花他



平成4年11月26日
朝日新聞←

おやじ日本山形

●日本山形大会（第8回 NPO 法人おやじ日本全国大会山形大会）

平成22年年11月6日（土）、7日（日）山形にて開催した、「第8回 NPO 法人おやじ日本全国大会山形大会」は約250名の方々にご参加頂き、盛会となりました。

大会一日目

日時：平成22年11月6日（土） 場所：山形国際ホテル

講演：「育てたように子は育つ」

講師 相田 一人氏（相田みつを美術館 館長）

パネルディスカッション：「未来を開く子供たちをどう育てるか」

コーディネーター：竹花豊 おやじ日本理事長

大会二日目の様子

7日（日）、第75回山形掃除に学ぶ会平成22年度年次大会が山形県立山形工業高等学校にて開催されました。朝、8時から開会式が行われ、その後掃除実習が行われました。掃除修了後の昼食には山形名物「芋煮」がふるまわれました。



●“学校へ出かけよう”プロジェクト実施

おやじ日本は「未来教室」という新展開、おやじ日本山形として会合を重ねて得た結論は、5人の講師陣を目玉に“学校へ出かけよう”プロジェクトを展開、学校をはじめ、外部会場へ出かけ講演や懇談会をしていこうというもの……。平成23年12月にスタートして以来、今日まで約20件弱を実施、反響の大きさとオファーの連続に嬉しい悲鳴を上げています。（おやじ日本山形代表和田英光理事からの報告ニュースレターNo14記事抜粋）



豊橋おやじネットワーク

●豊橋おやじネットワーク発足

平成18年10月1日、愛知県豊橋市中野小学校で開催された「おやじフォーラム2006」を機に発足した「豊橋おやじネットワーク」は、豊橋市の南部・南陽ブロックおやじの会の小野会長を中心に《子どもと一緒におやじも遊ぶ/子どもと一緒におやじも学ぶ/子どもと一緒におやじも育つ》を合言葉に活動しています。平成19年11月11日には「広げよう、豊橋おやじの輪」をキャッチフレーズに「おやじフォーラム2007」を開催しました。（ニュースレターNo 2記事抜粋）

●第3回愛知おやじサミット in 豊橋

平成22年1月30日（土）豊橋市公会堂にて第3回愛知おやじサミット in 豊橋が開催されました。サミット会場には200名を超える愛知県内各地からのおやじが集い、大いに盛り上がりました。おやじ日本からも8名の会員が参加し、愛知県内の熱いおやじ達の活動にエールを送りました。



●第4回愛知おやじサミット in 大口

日時：平成24年1月28日（土）午後0時30分～ 場所：大口町民会館

テーマ：「おやじの子育てー子どもも育つ、おやじも育つ、地域も育つ人づくりー」

豊橋おやじネットワーク渡辺嘉郎理事より感想（抜粋）「当日の参加は100名弱でしたが、基調講演の助産師の前田さんから「命の誕生と子育ての大切さ」として受精から出産、思春期までのお話をいただきました。パネルディスカッションでも、活発な意見が聞かれ、充実した会となりました。」

●第5回愛知おやじサミット in 刈谷

日時：平成25年2月2日（土）午後2時～ 場所：刈谷市産業振興センター

テーマ：「確かめ合おう 親子の絆ー親の本音、子の本音ー」



おやじ日本しなみ準備会より……

平成22年1月16日(土)、今治市住民センターにてフォーラムが開催されました。おやじ日本竹花理事長の講演が行われ、講演終了後、会場からは子どもたちを守るための具体的な行動など質問が続きました。また、フォーラム終了後の交流会では、おやじ日本ネットワーク推進担当の伊東副理事長とともに今後の活動について熱い議論が交わされました。

(ニュースレターNO8掲載)



大子自然塾

青少年健全育成を目的に、世田谷区内四校のおやじの会合同で、平成十四年から日帰りで親子自然体験を実施して、活動拠点探しをしていたところ、平成十八年十月から茨城県の大子町から、廃校跡地を借用するに至って、オール世田谷おやじの会大子自然塾として開塾しました。以降役場・地元関係者等の多大なご支援・ご協力の下、数々の親子自然体験を企画・運営することが出来ました。

地元協力者から田・畑・山をお借りして、通年活動として米作りは田植え・草取り・稲刈り・天日干しして脱穀、自ら収穫した米を賞味・もち米は寒餅会で餅つきして、みんなで味わう。この様に色々なおやじの会活動の一つとして、自然体験は親子で同じ空間の中で共に汗して何かをやり遂げて、共に同じ満足感を味わって、良い環境作りにも役立つことを確信して益々効果の上がる活動にしていきたいと胆銘しています。

(正会員大子自然塾長 寺澤恵太郎さんより ニュースレターNo14掲載)



倉敷市立大高小学校おやじの会

〇〇●83運動推進中●〇〇〇

岡山県倉敷市立大高小学校では、平成21年5月におやじの会が発足されました。

今年2年目の現在で、会員数が48名です。

主な活動は、運動会、夏祭り、地域の文化祭の参加とお手伝い。12月に餅つき会。毎月の挨拶運動や学校の奉仕活動を中心として、参加可能な時に、無理なく参加していただく様に活動をしています。

おやじ日本の活動をホームページで知り、83運動のポスターを学校、交番所、公民館、コンビニエンスストア等に貼っていただいております。(倉敷市立大高小学校 おやじの会 顧問育友会(PTA)会長中野洋樹さんからのレポート ニュースレターNO10 掲載)

中野洋樹さん
→



↑コンビニエンスストアに掲示

←大高小学校おやじの会の皆さま



長野おやじの会連絡会

長野市おやじの会連絡会設立準備会

～やってみよう！おやじにできること、大人にできること。～

日時：平成24年1月28日(土) 13:30～16:30

場所：長野市第二地区公民館 (城山小学校東側)

内容：第1部 基調講演 13:30～15:00

竹花 豊 (NPO 法人おやじ日本理事長)

第2部 対談 15:10～16:30

「今、求められている親の力、先生の力」

平野 吉直氏 (信州大学教育学部 学部長)

竹花 豊 (NPO 法人おやじ日本理事長)



↑竹花理事長による基調講演 ↑平野吉直氏と対談



↑外は一面の雪、議論は熱く…



83運動の広がり コンビニへも・・・

朝の8時は子どもの登校時間、午後3時は下校時間です

83運動は「子どもを見守ることを大人の生活の一部にしていこう」という運動です。例えば、散歩や買い物、草花への水遣りなどの外での用事を、子どもの登校時間（朝8時）や下校時間（夕方3時）に集中して行えば、子どもたちの姿が自然に大人の目に入ようになります。通学路はもちろん、公園やショッピング街などの子どもたちが集まりやすい場所に、大人の目を、日常的に向けていくことが、子どもの地域での安全を見守ることにつながります。おやじ日本では、平成18年春から、83運動を推進し、実施状況や実施例の情報を全国に発信しています。83運動を全国に広げていきましょう。

2007年、全国に2,000店を超えるコンビニエンスストアが、83運動に賛同し、従業員が掃除をしながら子どもたちに声をかける運動に取り組んでいます。

タイム・コンビニエンス（時間の利便性）を提供するコンビニエンスストアは、年中無休で営業することを基本とし、深夜でも明かりがとまり、店内には従業員がいます。そんな特徴を生かし、各店舗を“まちの安全・安心の拠点”にしていこうと取り組み「セーフティステーション」活動を2005年10月から各店舗で実施しています。

（コンビニエンスストアのホームページより）

家庭や学校から企業や商店へも活動が広がっていくのは、とても心強いことです。

東京の加藤さん

月曜から金曜日まで毎日、雨の日も風の日も子どもたちの登下校時間に、近所の横断歩道で、子どもたちが事件や事故に巻き込まれないように見守っています。もちろん、帽子には、缶バッジをつけてます！

神奈川の田中さん

グループを作り、交代制で登下校時のパトロールを実施中です。私は月2回くらいの参加です。職場でも、83運動のポスターを張って、話題にしています。

千葉の浅野さん

勤務先でも、缶バッジを背広につけて、折に触れ、話題にしています。興味を持って「おやじ日本」に参加したいと言う人も出てきました。職場にポスターを掲示したいと思っています。

ポスターは、おやじ日本のホームページからダウンロードできます。



埼玉の厚東さん

学校、自治会、警察署、ケーブルテレビなどにポスターを持参して、83運動の趣旨を説明し、協力を依頼しています。ポスターを掲示板に張り出し、子どもの見守りを呼びかけてくれるところが増えてきて、うれしいですね。

東京の前田さん

親子キャンプの時に、テントサイトにポスターを貼って、83運動の趣旨を説明しています。土日は、近所に出かけるときも、帽子に缶バッジをつけて歩いていますよ！

埼玉の関根さん

子ども達一人一人の成長を見て行く度に「将来のわが国の」大きな希望と夢がはっきりと明るく見えて参ります。たのむぞ「君達、あなた達」と心の底で密かに幸せに、日本国を守って頂きたいとエールを送っております。

群馬の八木さん

群馬県警では、町と協働して「83運動」を展開中です。玉村町はこれまでも「3時は防犯タイム」を合言葉に、毎日午後3時子どもの下校を見守る運動を推進していたのですが、今回市町村と連携した防犯イベントで「83運動」の推進を呼びかけました。これまでの活動がさらに広がっていくことを期待しています。

東京の伊東さん

少年補導員協議会のメンバーと一緒に、83運動の横断幕を作り、お祭りのパレードに参加しました。地域の皆さんに「子どもたちの見守り」をアピールできたと思います。

おやじ宣言～立ち上がれ！おやじ～ Let's start “iS movement” (アイエスムーブメント) 」



携帯・インターネットの使用により子どもが犯罪に巻き込まれ、犠牲者となる事件が続発している。平成19年7月には、携帯メールのいじめが原因の一つとなって神戸市の高校生が自らの命を絶った。子どもたちを取り巻くインターネット環境で何が起きているのか。

総務省の「通信利用動向調査」(平成17年)によれば、インターネット利用人口は8,529万人であり、人口普及率は66.8%に達している。また、子どもたちがケータイ電話を通じてインターネットに触れる機会が急速に広がっている。平成17年にNTTドコモモバイル社会研究所が実施した調査では、高校生の携帯保有率は実に96.0%にも上っている。中学生で66.7%、小学生で24.1%、であり、年々数字は上昇すると予測される。

また、平成17年の(社)日本PTA全国協議会の調査によると、インターネット接続機能が付いている携帯を所有している小学生は50%以上、中学生では75%以上という回答結果が報告された。親が子どもに買い与えている携帯は、もはやインターネットそのものであり、多くの子どもたちにとってごく身近な手放すことが難しい日常の道具になりつつある。

他方で、携帯電話には、わいせつ、暴力はおろか、犯罪を誘発するものまで、子どもたちにそのまま見せたくない情報が氾濫している。このため、多くの子どもたちがインターネット上の犯罪に巻き込まれかねない状況は、ますます悪化している。現に、警察庁によれば、平成18年中の出会い系サイトに関連した犯罪検挙件数は1,915件(前年同期比21.1%増)、被害に遭った子どもは1,153人(同8.7%増)となっており、その大半は携帯電話を使用して被害に遭ったものである。更に、メール依存やメール中毒と言われるように携帯電話に半ば支配された生活をしている子どもたちも少なくない。

このように、私たち親、大人がかつて経験したことのない新たな危機が子どもたちに迫っているのだ。

また、携帯電話やパソコンからインターネットを使っている子どもの62.1%が、家庭でのルールは何も決めていないと回答し、保護者の49.2%が何もせず、自由に使わせていると回答している。(**「バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守るために 最終報告書」**警察庁 平成18年12月)

子どもの被害を防ぐためには、まず親がよく勉強し、携帯電話を持つ必要性や使い方などについて子どもとよく話し合うことが大切なことに異論はないと思う。ただ、子どもたちには「友達が使っているし、フィルタリングのついているものなんて恥ずかしい。」と主張することが多く、これに根負けする家庭も少なくない。そこで親も、先生も地域の大人も足並みを揃えて、「そんなことはない。お父さんたちも皆でよく話し合ったが、子どもの持つ携帯は、持つとしても必要な機能があれば十分だ、という意見が大半だった。」と子どもたちに力強く伝えていく必要がある。親、学校、事業者及び地域社会の大人たちが手を携えて「子どもたちを大切にする」一歩踏み出した取り組みを進めることが、子どもたちに対する大人の責任ではないだろうか。

続発する子どもを巻き込んだ事件、絶たれた尊い命から私たち大人は学び、明日は我が家、わが子に降りかかるかもしれない未来社会の担い手を失いかねないという思いを共有し、事件の再発を許さない「おやじ」の覚悟を示し、ネット社会を安全で安心な環境に整えていく姿を見せていく必要がある。

このような思いから、おやじ日本は、子どもの安全で安心なインターネット環境を整えるために、インターネット安全運動として“iS運動(インターネットセーフティ運動)”を推進します。「おやじ日本」の会員は勿論、多くの方々のご参加を願っています。

平成20年1月

おやじ日本発 インターネットセーフティ運動

安心もケータイさせよう！ iS 運動

立ち上がれおやじ！

ケータイのこと “知ろう、話そう、手をつなごう”

<<iS運動・アクションプラン発信(2008年)>>

(1) iS 運動の象徴となるロゴを提供します。

ポスター、カンバッチ、シールなどを製作し、提供しています。ポスターは、「おやじ日本」ホームページから自由にダウンロードしてご利用下さい。

(2) 各地のおやじの会をはじめ、子どもの問題に関わる多くの団体に、「一緒にやりましょう！」と呼びかけます。

(社)日本PTA全国協議会 (社)全国高等学校PTA連合会 (社)日本青年会議所 (社)全国少年警察ボランティア協会 ネット社会と子どもたち協議会 NPO 法人日本ガーディアン・エンジェルス (財)マルチメディア振興センター ほか

(3) ケータイ・インターネット問題のフォーラムを開催、支援します。

「おやじ日本」として各地でフォーラムを開催するほか、パネラー等を派遣します。

(4) ケータイ・インターネット問題の情報を提供します。

「バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守るために」最終報告書など、有用な情報を提供します。

(5) ケータイ・インターネット問題の専門家を紹介・派遣します。

おやじ日本、関係団体、NPO 等からの語り部を紹介・派遣します。

○iS 運動イメージデザインはじめポスター、シール、カンバッチなどの関連グッズの製作は、株式会社電通・CSR室社会貢献部の多大なるご協力をいただきました。

○フォーラム開催や、情報提供、講師の派遣に関しましては、おやじ日本事務局までお問い合わせ下さい。

「未来教室」にご参加を

認定特定非営利活動法人おやじ日本 理事長 竹花 豊

最近、若者の間に内向き思考が広がり、中には社会にうまく適応できない者が増えるなど、先行きが心配な状況が見られます。その上、グローバル競争の激化、景気の停滞、雇用環境の悪化など若者を取り巻く状況は厳しさを増しています。

このような社会の変化に対応できるように、子どもたちには十分な準備をして社会に出て行ってほしいものです。苦労はあっても、たくましく、はつらつと新しい時代を築いていってほしいと願わずにはいられません。

私たち大人には、ただ願っているばかりではなく、自らも一歩踏み出した取り組みが求められているように思います。親も、学校でも、また、地域社会でも、新しい時代に新しい取り組みを必要としていると思います。

それには、いろいろなものがあると思いますが、私たちは、「企業や個人が学校と協力して、学校で子どもたちに社会の息吹を伝える未来教室」の拡充に取り組みたいと考え、準備を進めてきました。これは、おやじ日本がコーディネート役を担い、学校のニーズと企業や個人のニーズを結びつけようとするものです。

実は、この取り組みをちょうど一年前から進めてきたのですが、もっと簡単にウェブサイトを立ち上げてやれると考えていました。というのも、参加したい企業や経営者はたくさんおられ、学校もまたキャリア教育を進めようという動きがあったと聞いていたからです。ところが、学校には、学力向上など課題が山積みし、新しいことに取り組む余裕がないことや、企業などに本当に子どもたちのためになる授業をしてもらえるのか、その情報はどこに連絡すればよいのか見当がつかないなどの事情があり、企業等には、自分たちに良い授業ができるのか、希望する学校をどうやって見つけるのかなどの悩みがあることがわかってきました。

そこで、私たちは、まず、前向きな学校を探し出し、それぞれの学校のニーズに沿った授業ができる企業や個人を見つけ、双方をうまくつないで少しずつでも進めていくこととしました。その中で、課題やその解決方法も明らかにしていけると思っています。幸い、おやじ日本には、学校でこの問題に積極的にかかわってきた学校管理職経験者があり、また、私達に賛同する多くの方がいます。それに、少なくない企業の方々が社会貢献の一つとして私たちの取り組みに参加を表明してくれています。

今のところ、基本的には企業等の皆さんのボランティア活動として進めてまいりますが、皆様に、私たちの考えをご理解いただき、ご協力をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

平成23年9月～平成25年3月 「未来教室」

開催日時	開催校	協力企業
平成23年		
9月17日(土)	目黒区立東山中学校	パナソニック(株) (株)ジェイティービー インテル(株)他
10月8日(土)	世田谷区立中町小学校	住友スリーエム(株) (株)NHK メディアテクノロジー 日本アイ・ビー・エム(株)
11月8日(火)	新宿区立西早稲田中学校	インテル(株) 東日本旅客鉄道(株)
平成24年		
1月12日(木)	府中市立府中第五中学校	東レ(株)
1月21日(土)	渋谷区立幡代小学校	(株)NHK メディアテクノロジー
2月18日(土)	渋谷区立猿楽小学校	日本アイ・ビー・エム(株)
2月22日(水)	渋谷区立広尾小学校	ワタミ(株)
3月1日(木)	渋谷区立神南小学校	全日本空輸(株)
3月3日(土)	渋谷区立笹塚小学校	東日本旅客鉄道(株) 東レ(株)
3月14日(木)	渋谷区立臨川小学校	東レ(株) 東日本旅客鉄道(株) 読売新聞
3月15日(金)	渋谷区立臨川小学校	ワタミ(株)
3月17日(土)	杉並区立大宮小学校	日本アイ・ビー・エム(株)
5月12日(土)	渋谷区立中幡小学校	東日本旅客鉄道(株)
6月9日(土)	渋谷区立加計塚小学校	理研ビタミン(株)
6月15日(金)	渋谷区立山谷小学校	読売新聞
6月16日(土)	渋谷区立代々木小学校	ワタミ(株)
6月28日(木)	新宿区立西早稲田中学校	リーガロイヤルホテル東京 インテル(株) (株)三井住友銀行 (株)博報堂 読売新聞
7月7日(土)	渋谷区立山谷小学校	読売新聞
7月13日(金)	渋谷区立常盤松小学校	ワタミ(株)



開催日時	開催校	協力企業
9月13日(木)	渋谷区立臨川小学校	(株)明治
9月14日(金)	渋谷区立広尾中学校	東レ(株)
9月15日(土)	目黒区立東山中学校	パナソニック(株) インテル(株) (株)ジェイティービー ワタミ(株) ヤマト運輸(株)コントロール・リクス・グループ(株) (株)三井住友 銀行 (株)ゼンショーホールディングス 全日本空輸(株) キューピー(株)
9月15日(土)	杉並区立大宮小学校	日本アイ・ビー・エム(株) (株)NHKメディアテクノロジー
10月13日(土)	世田谷区立中町小学校	中町小学校卒業生 (株)博報堂 読売新聞
10月30日(火)	渋谷区立臨川小学校	リーガロイヤルホテル東京
11月7日(水)	渋谷区立代々木中学校	リーガロイヤルホテル東京
12月14日(金)	渋谷区立臨川小学校	
平成25年		
1月15日(火)	府中市立府中第五中学校	東レ(株)
2月1日(金)	渋谷区立広尾中学校	(株)三井住友銀行 読売新聞 全日本空輸(株)
2月16日(土)	渋谷区立幡代小学校	全日本空輸(株)
2月16日(土)	渋谷区立猿楽小学校	ヤマト運輸(株)
2月23日(土)	渋谷区立笹塚小学校	東日本旅客鉄道(株) (株)ゼンショーホールディングス
3月2日(土)	杉並区立井荻小学校	キューピー(株)
3月2日(土)	杉並区立大宮小学校	キッコーマン(株)
5月11日(土)	渋谷区立鉢山中学校	(株)竹中土木 (株)ルネサスソリューションズ



子どもたちの感想は…

目黒区立東山中学校 「生き方教室」

2年A組 テーマ:「私が選んだ職業」

協力企業:全日本空輸株式会社

生き方教室のご指導、ありがとうございます。今日のお話で、私はある目標を持つことが出来ました。それは私も中1の4月から毎日続けている『基礎英語』をずっと続けようと思ったことです。生き方教室で身近に実践できる目標を見つけられて、本当に良かったです。また、立居振舞の練習では、今まで全く気をつけたことがない動作も美しく行うことが出来るのだと知って、大人になるまでに、それが自然に出来るようになっていたいと思いました。普段からご指導いただいている先生方とはまた違った感覚で、本当に貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。これからもお仕事を頑張ってください。

2年E組 テーマ:「外国の人達と一緒に仕事するという事～多様性を大事にしよう～」

協力企業:コントロール・リクス・グループ株式会社

ぼくは今回の生き方教室で話を聞いて、ぼくたちには想像もできないようなことが世界ではおきているということがわかりそこで活躍しているのはすごいと思いました。さらに交渉のプロという話を聞いて、ぼくは映画で犯人との交渉をしているシーンはよくみるけれど、実際にそのようなことをしているというのにとてもおどろきました。ぼくも将来世界で活躍できる人になりたいです。お話しはとても面白かったです。

3年A組 テーマ:「中学生から考える今後の仕事について」

協力企業:インテル株式会社

60%の人が今ない仕事につくと聞いて驚きました。好きなものも極めれば職にできることが分かりました。職について、お金をもらいはじめても、努力しつづけなければならないと分かりました。将来について考えることができました。

2年B組 テーマ:「人としての生き方」

協力企業:株式会社ゼンショーホールディングス

「すき家」というと私の中では、牛丼を提供しているイメージしかありませんでした。しかし、私達の見えないところで、人のために世界各地に行きボランティアをしていたというのには驚きました。でも、人の見えないところで頑張っていることが、本当に『働く』ということではないかと思います。今回の生き方教室は自分の仕事に対する価値観を少し変えたのではないかと思います。

2年D組 テーマ:「未来の名刺」

協力企業:ワタミ株式会社

今回はお話ししてくださってありがとうございました。私が一番印象に残っているお話は、「3×365×10」のお話です。私は少しずつ続けるのがあまり得意ではありません。でもお話を聞いてからは毎日続けることができています。また、マンガおもしろかったです。「夢に日付をつける」やってみみたいです。

2年C組 テーマ:「私の行き方発見プログラム」

協力企業:パナソニック株式会社

今回のお話を聞いて、今は良い立場でお仕事が出来ていても、昔は上の人からいろんな事を言われたり、大変な事もたくさんあったという話が印象に残りました。たくさん悩む事があってもその壁を乗り越えて今まで続けているのはすごいと思います。Panasonic の～Ideas for life～という言葉がとても良いなと思いました。みんなの暮らしを第一に考えてたくさんのアイデアを出してくれるからこそ、私達が便利に生活できているのだと思います。

3年B組 テーマ:「私の行き方発見プログラム」

協力企業:パナソニック株式会社

「悪いこと以外はすべてやってみる」という言葉が心にのこっています。積極的に行動することの大切さがわかる言葉でした。金色のアイロンのおかげで国によって物の需要がきまるんだなと思いました。また、アフリカの人は1000円のラジオを大切にもっているそうなので、僕も物を大切にしていこうと思いました。世界の国々の楽しい話をきけて、僕も世界へ行ってみたいくなりました。

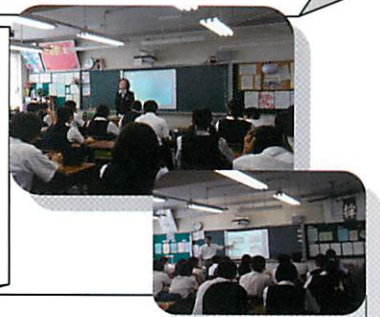
3年E組 テーマ:「社会人になって必要とされる力」 協力企業:株式会社三井住友銀行

今回、生き方教室で話を聞いて、ためになることがたくさんありました。たとえば、大人になったら、時間を守る、5分前行動や銀行員の仕事など、いろいろ教えて頂いて良かったです。何でも努力すれば、またなりたいものの気持ちが強ければ、なれるものなのだなと思いました。だから私も、何事もあきらめしないで、頑張ろうと思いました。

3年C組 テーマ:「危機を乗り越えるクロネコヤマトの現場力」

協力企業:ヤマト運輸株式会社

私は震災ときなにもできない、という自分の無力さを感じていました。そんな中、ヤマト運輸のみなさんが、そんなにも被災地のみなさんのためにすぐに配達をはじめていたなんて、はじめて知りました。そして、今回、ビデオをみせていただいて、本当に感動しました。うるっときたり、心がほっこりしたり…ほんとうによかったです。そして、私もそういう人間になりたいと思いました。本当にありがとうございました。私がこんなことを言うのはだいぶ恐れ多いですが、これからも、人々に元気を届けてください。



3年D組 テーマ:「〈働く〉っておもしろい」 協力企業:株式会社ジェイティービー

私は今まで進学のことしか考えていませんでした。ですが、本日の話を聞いたことで、進学先のこともきちんと考えようと思いました。大人になって気の合わない人に出会ったとしても、嫌わずに、他の良い面を見つけられる包容力のある人間になりたいです。まだまだ未熟者の私ですが、高校や大学そして社会に出ていき成長していきたいです。



世田谷区立中町小学校 「未来教室」(キャリア教育の一貫として)

4年1組、2組 テーマ:「探査機を宇宙に飛ばそう」 協力企業:日本アイ・ビー・エム株式会社

ぼくは未来教室の授業に参加して、ロケットのある意味やロケットと同じ原料を使った実験をしてわかった事があります。ロケットのある意味はうちゅうのじょうたいなどを調べて、日本や世界中のどこかに発しんするということがわかりました。実験では、どのようにしてロケットが飛ぶのかがわかりました。火を出して温められた空気は上に行くから、ロケットが飛ぶといくことがわかりました。しかも実験では、15m10cmの最高記録を出せたのでうれしかったです。うちゅうの話はおもしろくて、5年生になってからの未来教室が楽しみです。

5年1組 テーマ:「国際的舞台における日本人の仕事と人材～海外での経験から～」

協力者:中町小学校平成2年卒業生

今日はとてもスゴイ事を教えていただき、ありがとうございました。中町小を卒業している人でこんなにスゴイ人がいたのにビックリしました。私はスーパーで売っているタコは全て日本産の物かと思っていましたが、まさかあんなに遠くから届いている事に、またまたビックリしました。お話を聞いて、海外で仕事してみたいなと思いました。そして海外でかつやくできる、中町小学校の卒業生になりたいです。いつか未来教室の先生になるためにがんばって行きたいです。

5年2組 テーマ:「3Dって?」

協力企業:株式会社NHKメディアテクノロジー

私は今まで3Dをほとんど見たことがなく、とくに興味がありませんでした。ですが、今回3Dの話やえいぞうを見て、3Dにとっても興味ができました。左右のメガネのフィルムがちがうこと。右と左で見えるえいぞうがちがうこと。右と左せんようのえい写機があり、ものすごいスピードで交ごに動いていることなど、たくさんの仕組みがありおどろきました。テレビ番組のスタッフたちがどのようなことをしているかも少し知れてよかったです。私は将来ペーパーテレビができ、安い値段で買えるようになるといいな、と思いました。これからも色んな新しい便利なものを作って行って下さい。

6年1組 テーマ:「今、世界で起きていること～リスクのコンサルティングという仕事～」

協力者:中町小学校平成2年卒業生

僕は未来教室に参加して、世界で今何が起きているそれがどのような事をもたらすのか、また争いはなぜ起こるのかということ学ぶことができました。未来教室の時間の中で僕が感じたことは二つあります。一つ目は物事には必ず経済的な理由、もしくは思想的な理由が存在しているといくことを気付かされたことです。二つ目は、人間は一度何かに対して欲を持ってしまうとのがれることができないと中国のことから分かりました。他にも色々ありましたが、一番心に残ったことは、テレビなどでよく見る憧れでもあるジェームスボンダのような仕事がこの世界に存在しているということです。僕も大人になったらそんな仕事になってみたいと興味がわきました。

6年2組 テーマ:「法律入門～弁護士の色々な働き方～」

協力者:中町小学校平成4年卒業生

今日、来てくださった弁護士の方のお話を聞くまでは、今までぼくは将来どのような事をすればいいのかわからなくて少し悩んでいましたが、弁護士の様々なお話を聞いて、誰だって少しは失敗があるからそれをおそれないでいくことの大切さや様々な事に挑戦することの大切さを知りました。また、弁護士はどのような仕事をしているのか分からなかったもので、その仕事内容を聞いて、疑問が減りました。ぼくは自分の人生を作るといのはとても難しいという事を知ったので、ぼくはこれから様々な体験や勉強などをしていきたいと思いました。ぼくのこれからの人生にはきっと様々な困難が待ち受けていると思うので、その困難を乗り越えて自分の人生は自分でつくって行きたいです。

←平成23年12月25日読売新聞

「社会人」育てる体制作ろう

東京都教育委員
基調講演 竹花 豊さん

[illegible]

充実する「未来教室」

認定特定非営利活動法人おやじ日本理事長 竹花豊

「子どもたちを一人前の社会人に育てたい。そのために、すべての大人が自分の思いを本気で伝えよう！」私たちは、企業の方々に学校で出前授業をしていただくお手伝いをしています。グローバルな動きやそこで大切なこと、ものづくりの楽しさ、好きなことを大切にいきまらぬことに続けることの大切さなどを伝える先輩たちの真剣な話に、小・中の子どもの心が前のめりになつて聞き入ります。先生たちも興味津々です。先生たちには語れない話を聞かせ、子どもたちの心に何かが届いています。

国際的なリスキのコンサルティング会社の若き経営者の話を聞いた小学6年生が思わずつぶやきました。「先生、大縄跳びの練習している場合じゃないよ。他の勉強しなきゃ。」今のあなたは運動会の練習をしつかりやるのよ。」と先生は答えます。思わず笑いが漏れますが、子どもたちが将来を見据えて勉強することと今の勉強を大切にするを感じ取った瞬間でした。

こんな授業を、「未来教室と呼んでいます。これまで25000名を超える子どもたちが受講しています。80を超える企業の方々に協力していただいています。

今年も未来教室増やしていきます。子どもたちが生きる厳しい時代を幸せに、生きがいを持って生き抜けるように、十分な準備をしてほしいと心から願っていることを伝えたいのです。

(出所平成25年1月1日 教育家庭新聞)

第10回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会記事
(P16~17参照)

企業のキャリア教育を橋渡し

●「おやし日本」全国大会

NPO法人「おやじ日本」(理事長・竹花豊孝)京都教育委員会は6月24日、東京都渋谷区の同区文化総合センター大田会で第10回全国大会を開催し、約550人が参加。昨年9月から始めた出前授業「未来教室」を紹介しながら、キャリア教育の在り方について話し合った。

を説明しながら、情報は多くの中から自分にとって必要なるものを選択することが必要で、情報に関心を持つことで大きく成長するチャンスを与えてくれる——と強調し、「新しい時代を創っていくために、切符を切つてスタートしてほしい」と呼び掛けた。

東しの金森麻理子氏は、「水のろ過と地球環境」を考へる」と題した理科実験を実施した。

だが、子どもたちの心に火を付けてくれた（世田谷区立中町小学校長の稲葉実氏）。「教員には社会経験がなく、「社会」を学校の中に入れることが大事だ」（目黒区立立東山中小学校長の牛島正廣氏）と好評だ。

人のために努力する大切さを

第2部は、「信頼され、魅力のある公教育を確立し

冒頭 竹花氏は6月16日に国府庁より認定特定非常営利活動法人の認定を受けたことを報告した。今後、同会に寄付や贈与をした人には寄付金控除が適用される。

未来教室は教育に貢献したい企業と学校のニーズを結び付ける事業で、昨年度は都内の小・中学

新しい価値の創造を通じて社会に貢献することを企業理念とする同社では、次世代を担う理系人材の育成を企業としての責任と捉え、子どもたちの理科離れ解消に役立つ効果的な教育支援を行いたいと考えたという。とりわけ社会とのつながりを実感できる授業支援を展開したいとしている。

するために、と題したパネルディスカッションが行われた。登壇したのは文部科学省大臣官房教育改革調整官の浅田和伸氏、日本アイ・ピー・エム相談役の北城格太郎氏、千葉大学の藤川氏、竹花氏、NHK解説委員の早川信夫氏（コーディネーター）の5人。

者に「日本経済」全国大会にて第1部として、
税を生産促進、社会が橋樑授業を披露した。

制服、制服姿で登壇したJR東日本の持立雄也氏は、自動改札切符や同社の「I-C乗車券（「Suica」(スイカ)）」を例に、情報と社会生活の関わりを解説。乗客や鉄道会社にメリットがあるだけでなく、切符に使用する紙の廃棄量も減るなど社会問題の解決にもつながっていること

読売新聞東京本社には、千歳大学教育学会の藤川大祐教授が理事長を務めるNPO法人「企業教育研究会」と共同で「さるるるの授業」を未来教室にも提供。新聞記者が教職を目指す大学生をコンビニに呼び学校に派遣。インタビューや記事の書き方紙面作り体験を通して、言語能力やコミュニケーション能力の育成を図っている。徳毛貴文記者は学生の成長美さんとテンボがよく掛け合いをしながら

経済同友会会長幹事で中央教育審議会委員も務める北城氏は、「勉強ができる子、知識をたくさん持つてゐる子、偏差値の高い子が必ずしも社会で活躍できるわけではなく、自分で考えて行動する子を社会は求めている」として、学校と社会のギャップを埋めるために企業との関係者が学校に向いて教員や子ども、保護者との対話をする必要を強調。本人が経験や失敗談を話すことに意義を

ある」とした上で、「実行できるのは校長だ。積極的に対応しては、はい」と学校関係者に力づけた。藤川氏は、教育方法の研究室を基盤としたNPOで学生たちを年間約2500校に派遣している狙いとして、「新しい授業を開発するとともに学校の先生や企業の人とも話ができるものをつつほしい」と説明。新学習指導要領で「既存の教科内容と社会とのつながりが重視されているが、子どもたちも大人となれば合う中で、社会に貢献

業を経験すれば、どの子にも大きく変わる機会が与えられる」として、継続的な取り組みを求めた。与田氏は3月まで年間、希望して東京都品川区立立崎中学校の校長を務めた。未だ東京で働いていた彼は「学校にとってはとても貴重な人選だ」と評しながらも「企業やNPOなど、学校を手伝いたいという人はすくなく増えている」と指摘。校長を経験した立場から「使えることほどどんどん長け、学校教育を支える協力関係ができると

参加者を交えた討論でも「氣付きを与える授業が大事（NPO関係者）」、「こういう仕事がしたいからこういう勉強をするんだ」といことを学校でしっかりと教えるしてほしい（「企業関係者」）などの注目が相次いだ。昨年10月に未来教室を実施した新宿区立早稲田中学校長の三町章氏は「ハードルが高い」という感じはしている。今は「ハードルでもキリア教育を認識して」と呼び、東レの担当者も「企業としては本当は『開発

いい」と述べた。

さらに、大崎中でも自ら「本物」を招いた授業を実施した経験が踏まえて、「子どもたちが大人が思っている以上に授業のことを考える力があるし考えたがっている。そのための豊かな材料を提供してあげたい。教職員が、とてもいい刺激になっている」と意義を強調しながら、「ナトリウムの校長に広がることだからできた、では駄目、多くの学校に広げることが大事」あくまで学校の主導権をとって、どういう力をつけたかという点を持っていない。企業の方々にも通達せしめ、それにリンクエスレを伝えるべきだと注意を促した。

竹花氏は未来教室で始めたきっかけとして、昨年の大会に合わせて「13歳のハローワーク」の著

した商品など）、アビールにたいものがあるが、あくまで学校の先生から出てきたニーズをつかみながらやって」と説明した。

各地の「おどけの会」からは「未来教育のような授業はまだまだ学校の外のごく一部。おやじ日本がイニシアティブをとって、上（文科省）からも進める必要がある」（広島）、「子どもたちが真剣な大人とどれたか接することができるとが重要」（長野）との発言もあった。

北城氏は「仕事は人の役を立つこと。人の役に立つために努めること」の大切さを伝えるために、たくさんの方が教育の場に参加してほしい」と訴える。横田氏は「学校教育の目的は教科ではなく、自立する力をつけることだ」と述べた。



学校と社会の関係を話し合ったパネルディスカッション

「はい、藤川氏は作者の佐々木の上前氏にインタビューをしたことを挙げ、「おやと日本」は議論しておもしろい」と応じた。

「『小中、高校と何十回も』というのでは、子どもたちのことを語る資格がない」と、自ら実践して大人の責任を示したことを説明した。

「『おやと日本』の問いかけは、『おやと日本』事務所 電話03（3622）7113、または電子メール oyayotokuni@ncc.ncc.go.jp」

（文部科学省「おやと日本」事務局ジャナリスト）

平成24年7月3日内外教育

「渋谷区くみの広場 ふるさとしぶやフェスティバル」参加

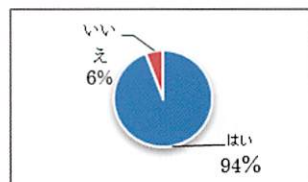
認定NPO法人おやじ日本は、平成22年度より、都立代々木公園周辺にて毎年開催される「渋谷区くみの広場 ふるさとしぶやフェスティバル」(主催:渋谷区くみの広場実行委員会 共催:渋谷区・渋谷教育委員会・NHK)に参加しています。渋谷区内で活動する団体や行政関係機関をはじめ、全国各地の物産展など160を超える団体が参加する大イベントです。平成24年度も11月3日(祝)、4日(日)「第35回渋谷区くみの広場 ふるさとしぶやフェスティバル2012」に、参加しました。テントにて、「83運動」、「iS運動」、おやじ日本の活動について、啓発、周知活動をしなが、ら、「未来教室」、子どもの安全に関するアンケートも実施、多くの方々にご回答を頂くことができました。ご協力頂いた皆さまに心より御礼申し上げます。



アンケート集計結果(抜粋)

問1. おやじ日本では企業や個人が学校と協力して、学校で子ども達に社会の息吹を伝える「未来教室」の拡充に取り組んでいます。

(1) お子さんの通う学校で実施してみたい？



詳細はホームページをご覧ください。

<http://oyaji-nippon.org/>

他団体連携 大人の責任を果たすために、全ての大人がつながろう

活動の広がりを目指して、竹花会長が各団体のトップと対談！連携を深め、83運動、iS運動を全国に発信していくことなどについて活発な意見が交わされました。

日本PTA赤田会長と対談(2008年3月)→



日本青年会議所
小田会頭と会談
(2008年6月)

子ども虐待防止のオレンジリボン運動に協力！ 東京都児童虐待防止チーム「TOKYO ARANCIA」



悲惨な児童虐待のニュースが後を断ちません。このたび、TOKYO ARANCIAにおやじ日本のご協力をいただけることとなりました。地域で活躍するおやじの力は、私たちにとってこれ以上はないと言える強力なものです。いま、地域が見えにくくなっていること(地域への無関心)が犯罪防止の上でも問題だと考えられるようになっていきます。これは、児童虐待防止にも同じことが言えます。このような時代の流れの中で、おやじ日本の活動はますます重要性を増していくことでしょう。

東京都福祉保健局 担当中村健児さんより

子どもポルノ禁止キャンペーンに協力

(財)日本ユニセフ協会、ECPAT/ストップ子ども買春の会、マイクロソフト株式会社、ヤフー株式会社などが共同で行っている「なくそう！子どもポルノキャンペーン」に、おやじ日本も協力しています。

放課後子どもプラン

放課後子どもプランは、子どもたちの安全・安心な居場所づくりを推進するための事業です。

おやじ日本では、2007年、「子どもの居場所づくりの取り組みへの父親の意識調査等」と「父親が中心になって活動している団体やグループ等の活動事例調査」を実施し、子どもの問題に関わる活動をしているおやじの会などの団体や個人の方々から、幅広く、活動事例や意見を募りました。

キャリア・スタート・ウィーク・キャンペーン

子どもたちが、職場体験を通して、働くことの意味や責任、そこで大切にされていることを学び、大人の真剣な生き方に触れることで、自分の将来を考えてもらうために、おやじたちにできることを実践していきます。

早寝早起き朝ごはん

子どもたちの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上を目指し、それぞれが、積極的な運動を展開しています。

定 款

第一章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人おやじ日本という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都渋谷区内に置く。

(目的)

第3条 この法人は、地域において子どものために、学校と連携しながら、子どもの各種体験活動やスポーツ等を行うおやじの集団（以下「おやじの会」という。）への支援、子どもに関する情報の提供等の活動を行うことにより、子どもの健やかな成長に貢献するとともに、心豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4) 環境の保全を図る活動
- (5) 地域安全活動
- (6) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (7) 子どもの健全育成を図る活動
- (8) 情報化社会の発展を図る活動
- (9) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) おやじの会の活動への情報の提供と助言事業
- (2) 地域におけるおやじの会ネットワーク化支援事業
- (3) 全国のおやじの会相互の情報交換支援事業
- (4) 子どもの健全育成に関する情報の発信と提供の事業
- (5) 子どもをめぐる諸問題を学ぶ機会の提供の事業
- (6) 子どもの安全及び健全育成に資する活動の提唱の事業
- (7) 第3条の目的に賛同する団体及び個人との協力関係の構築の事業
- (8) その他第3条の目的を達成するために必要な事業

2 この法人は、次のその他の事業を行う。

- (1) 著作物その他物品販売の事業
- (2) 寄付された物品の販売の事業
- (3) ホームページ及び機関紙等への広告掲載事業

3 前項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は、第1項に掲げる事業に充てるものとする。

第二章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の3種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という）上の社員とする。

- (1) 正会員 第3条に掲げるこの法人の目的に賛同して本法人に入会し、その活動を推進する個人
- (2) 登録会員 第3条に掲げるこの法人の目的に賛同して本法人に登録入会し、本法人の提供する情報を得て、第3条の趣旨に則した活動をする個人
- (3) 賛助会員 第3条に掲げるこの法人の目的に賛同し、資金の提供その他の支援を行う個人及び団体

2 前項に掲げる会員の性別、年齢、国籍、子どもの有無等については、これを問わない。

(正会員及び登録会員の入会)

第7条 正会員又は登録会員として入会しようとする者は、正会員にあつては第9条に定める入会金及び会費を添えて、登録会員にあつては第9条に定める会費を添えて、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。

- 2 理事長は、前項の申し込みがあつたときは、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。理事長は入会を認めたときは、申込者を「おやじ日本会員名簿」に氏名を登録するものとする。
- 3 理事長は、第1項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(賛助会員)

第8条 賛助会員に関する事項は、この定款に定める事項のほか、理事会において定めるものとする。

(入会金及び会費)

第9条 会員の納入する入会金及び会費は、理事会において定めるものとする。

(会員の資格喪失)

第10条 会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、もしくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 正会員及び登録会員においては、継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

2 会員が資格を喪失したときは、理事長は「おやじ日本会員名簿」から氏名を削除する。

(退会)

第11条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第12条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

- (1) この定款に違反したとき。
 - (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

(抛出品の不返還)

第13条 すでに納入した入会金、会費及びその他の抛出品は、返還しない。

第三章 役員

(種別及び定数)

第14条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上25人以内
 - (2) 監事 1人以上3人以内
- 2 理事のうち、1人を理事長とし、1人以上5人以内を副理事長とする。
- 3 理事のなかから、専務理事及び常務理事を置くことができる。

(選任)

第15条 理事長・副理事長、専務理事及び常務理事は、理事の中から選任する。

- 2 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者もしくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。

4 法第20条各号のいずれかに該当するものは、この法人の役員になることができない。

5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職務)

第16条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長が予め指名した順序によって、その職務を代行する。

3 専務理事は、理事長を補佐し、理事会の議決に基づき、理事会の決議した事項及び日常の会務を統括する。

4 常務理事は、理事長の指示を受けて、会務を分担処理する。

5 理事の担当職務は、理事会において定める。

6 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

7 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

(任期)

第17条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれ前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、引き続きその職務を行うものとする。

(欠員補充)

第18条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超えるものが欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第19条 役員が次の各号の一に該当する場合には、理事は理事会、監事は総会の議決により、これを解任することができる。

(1) 心身の故障のため、職務の執行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員として相応しくない行為があったとき。

2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

第20条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は理事会で定め、その執行状況は総会に報告するものとする。

第四章 会議

(種別)

第21条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

(1) 定款の変更

(2) 解散及び合併

(1) 会員の除名

(2) 事業報告及び収支決算

(3) 監事の選任又は解任

(4) 解散時における残余財産の帰属

(5) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第24条 通常総会は、毎年1回会計年度終了後3ヶ月以内に開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。

(2) 正会員総数の3分の1以上から会議の目的を記載した書面により、招集の請求があったとき。

(3) 監事が、第16条第7項第4号の規定に基づいて招集するとき。

(総会の招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的、及び審議事項を記載した書面（電子メール、FAXを含む。以下この定款において同じ、ただし表決及び委任に関するものを除く。）により、開催の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第26条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(総会の議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した正会員の2分の1以上の同意があった場合はこの限りでない。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

(総会での表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なものとする。

2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は出席する他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決し、又は出席する正会員を代理人として表決を委任した正会員は、前2条及び次条第1項の規定の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること）

(3) 審議事項

- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2人が、記名押印又は署名しなければならない。

(理事会の構成)

第31条 理事会は理事をもって構成する。なお、監事は理事会に出席して意見を述べることができる。

(理事会の権能)

第32条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(理事会の開催)

第33条 理事会は、定例会として年4回開催し、次に掲げる場合には臨時会を開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集する時は、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催日の少なくとも5日前までに理事及び監事に通知しなければならない。

(理事会の議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(理事会の定足数)

第36条 理事会は、理事総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(理事会の議決)

第37条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した理事の3分の1以上の同意があった場合はこの限りでない。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会の表決権等)

第38条 各理事の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の出席する理事を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決し、又は出席する理事を代理人として表決を委任した理事は、前2条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第39条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数及び出席者氏名（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その氏名を付記すること）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果

- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び理事会において選任された議事録署名人2人が、記名押印又は署名しなければならない。

第五章 評議員及び評議員会

(評議員)

第40条 この法人は、評議員を置くことができる。

- 2 評議員は、理事会の議決により選任し、理事長が任命する。
- 3 評議員は、役員又はこの法人の職員を兼ねることができない。
- 4 評議員には、第17条、第19条及び第20条の規定を準用する。この場合において、これらの条文中役員とあるのは、評議員と読み替える。ただし、第19条については理事についての規定を適用する。

(評議員会)

第41条 評議員会は、評議員をもって構成する。

- 2 評議員会は、理事長の諮問に応じて評議し、意見を述べる。又、出席する評議員の2分の1以上の同意があるときは、評議員個人としての意見を理事長に提出することができる。
- 3 評議員会は、理事長が書面をもって招集する。
- 4 評議員会の議長は、評議員会において互選により定める。
- 5 評議員会の議長は、評議員会の議事について議事録を作成し、理事長に提出するものとする。

第六章 委員会等

(委員会等)

第42条 この法人は、業務推進のための運営委員会及び特定事業を担当する委員会（以下「委員会等」という）を置くことができる。

- 2 委員会等に関する規定は、理事会の議決を経て理事長が別に定める。

第七章 資産

(構成)

第43条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(区分)

第44条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に関する資産の2種とする。

(管理)

第45条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

第八章 会計

(会計の原則)

第46条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

(会計区分)

第47条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業会計、その他の事業会計の2種とする。

(事業年度)

第48条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び予算)

第49条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、毎事業年度ごとに理事長が作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第50条 前条の規定にかかわらず、やむをえない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費)

第51条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第52条 予算成立後にやむをえない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第53条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上余剰金が生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(臨機の措置)

第54条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

第九章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第55条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会において正会員総数の3分の2以上の多数による議決を経、かつ法第25条第3項に規定する軽微な事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第56条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立認証の取り消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由によりこの法人が解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第57条 この法人が解散(合併又は破産手続開始の決定による解散を除く)したときに残存する財産は、総会において正会員総数の4分の3以上の議決により、法第11条第3項に掲げる者のうち、この法人と趣旨を同じくする特定非営利活動法人若しくは公益財団法人又は公益社団法人もしくは東京都に譲渡するものとする。

(合併)

第58条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ所轄庁の認証を得なければならない。

第十章 公告の方法

(公告の方法)

第59条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

第十一章 事務局

(事務局の設置)

第60条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局には、事務局長及び必要な職員を置く。

(職員の任免)

第61条 事務局長及び職員の任免は、理事会の議決を経て理事長が行う。

(組織及び運営)

第62条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

第十二章 雑則

第63条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

この法人の目的に賛同し、認定特定非営利活動法人おやじ日本の賛助会員として資金その他のご支援を提供していただける場合には、下記用紙をコピーし、必要事項をご記入の上、おやじ日本事務局までご連絡下さい。賛助金は、個人については1口千円、企業・団体については1口1万円で何口でも申し受けさせていただきます。また、施設・会場、物品の提供もお願いしています。ご協力をお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人おやじ日本 賛助会員申込書

平成 年 月 日

認定特定非営利活動法人おやじ日本 理事長 宛

下記の金額の支払い・物品等の提供を申し出ます。

金 _____ 円也 (口数: _____)

又は 物品等名 _____
(内容等: _____)

社 名 _____

担当者所属部署・役職 _____

氏 名 _____ (印)

住 所 〒 _____

TEL _____ FAX _____

メールアドレス _____

振込先 みずほ銀行新橋中央支店 普通2059554 おやじ日本

ゆうちょ銀行 00150-9-631618 おやじ日本

連絡先 住所 150-0042 渋谷区宇田川町5番2号 渋谷区役所神南分庁舎3階 おやじ日本事務所

電話&ファクス: 03-3462-7113

メールアドレス: desk@oyaji-nippon.org

問合せ先 携帯: 090-3204-5682

※「おやじ日本」では、賛助会員に登録いただきました方のご氏名等を、ホームページなどで公表させていただくことを考えております。ご氏名等を公表することの可否についてお知らせください。

以下の①～③のうち1つをお選びいただき○で囲んでください。

①公表することが可能である ②公表することは考えていない ③その他 ()

※領収書を発行致しております。必要な方は下記にご記入ください。ご入金確認後、郵送させていただきます。

(おやじ日本に対して寄付または贈与をされた方につきましては、所得税、法人税または相続税上の課税について、寄付金控除等の特例の適用が可能です。)

記入するお名前 _____

認定特定非営利活動法人おやじ日本では、活動のための資料やグッズを提供、販売しています。ぜひ、ご利用下さい。



★ 活動応援冊子
「おやじの会に出かけよう」

★「おやじ」CD
(おやじ日本・応援歌)

元気でいこうよ おやじさん
これからおやじ 元おやじ
おやじの種類も いろいろあるが
日本の未来を 背負って立てる
子供を育てりゃ 日本一の
おやじの資格は 十分なのさ
(抜粋)

作詞 星野哲郎
作曲 あど Run 太

★ 関連グッズ



カンパッチ 1個 100円
シール 10枚一組100円

83運動と iS運動のポスター
は、おやじ日本のHP から無料
でダウンロードできます。

おやじ日本ホームページ <http://www.oyaji-nippon.org>

トピックや今後の予定、理事長挨拶、活動の報告、ニュースレター、報道記事、関連団体など、盛り沢山の情報を掲載しております。おやじ日本に関する情報入手や、資料のダウンロード等、ご活用下さい。

おやじ日本 ニュース・レター(会員・関係者に配布しています)

NO.5以降は、HP からダウンロードできます。

NO	発行年月	内 容
NO.1	2007 年 11 月	iS 運動 全国大会報告(千葉大会) 広がれ！おやじネットワーク(広島) 他
NO.2	2008 年 3 月	日本PTA会長との対談 おやじサミットイン広島(参加報告) 広がれ！おやじネットワーク(豊橋) 他
NO.3	2008 年 7 月	日本青年会議所会頭との対談 全国大会報告(埼玉大会) 広がれ！おやじネットワーク(今治) 他
NO.4	2009 年 1 月	「世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会 東京都教育委員会のアピール 広がれ！おやじネットワーク(大分) 他
NO.5	2009 年 4 月	NPO法人活動開始 続「世界のおやじ・日本のおやじ」意見交換会」報告 広がれ！おやじネットワーク(おやじ日本山形) 他
NO.6	2009 年 10 月	NPO法人設立記念大会 おやじ日本山形設立 広がれ！おやじネットワーク(おやじ木更津) 他
NO.7	2010 年 1 月	情報交換会 広がれ！おやじネットワーク(おやじ日本広島) 全国おやじサミット in 大分の報告 他
NO.8	2010 年 4 月	情報交換会 活動レポート(第3回愛知おやじサミット、おやじ日本しまなみ、おやじ日本広島) 83運動 他
NO.9	2010 年 8 月	第7回全国大会の報告 第8回全国大会山形大会の告知 おやじ日本広島設立大会の報告 他
NO.10	2011 年 1 月	第8回全国大会山形大会の報告 渋谷区くみんの広場参加 83運動 他
NO.11	2011 年 9 月	第9回全国大会の報告 村上龍氏(作家)・竹花理事長対談記事 正会員交流会の報告 他
NO.12	2012 年 1 月	学校と企業との連携支援(未来教室)報告 第2回おやじ日本広島大会 渋谷区くみんの広場参加 他
NO.13	2012 年 9 月	第10回全国大会の報告 学校と企業との連携支援(未来教室)報告 他
NO.14	2013 年 1 月	第3回おやじ日本広島大会報告 学校と企業との連携支援(未来教室)報告 渋谷区くみんの広場参加 他
NO.15	2013 年 8 月	創立10周年記念全国大会特集号 「広がれ！おやじの輪～語ろう子どもたちと～」



↑ NPO法人設立後第1回理事会で
審議を行う理事の皆さん(2009年1月)



↑ 月1回開催される運営委員会
(2012年4月)



↑ 認定 NPO 法人承認後の
理事会(2012年9月)



↑ 年4回開催される
理事会(2012年5月)



↑ 平成24年度通常総会 (2012年6月)



↑ 正会員交流会 (年2回開催)



↑ 新年互礼会(2013年1月)

認定特定非営利活動法人おやじ日本正会員 (理事・監事を除く 平成25年5月11日現在)

青木かの 赤枝恒雄 浅田和伸 浅沼仁 阿部敏彦 阿部桃子 阿部豊 池内ひろ美 池田利美 石井美知夫
 石川きよ子 石川礼子 石坂真一 石原正康 磯野信男 市村智 伊地知伸久 上田準二 牛島正廣 宇都宮啓
 内海正憲 梅原伸二郎 岡本和久 尾形和男 荻野善昭 奥谷泰史 長村和典 小田啓二 小野真 折笠廣司
 柏田榮文 加藤多津生 加藤浩康 金井務 菊池順子 北貞丈 楠本岳志 黒沼範子 上月正博 厚東克己
 児玉英一郎 櫻井邦彦 櫻井兼二 櫻田厚 更江篤 澤柳雪恵 篠原豊 島崎健二 清水武治 白石弥生子
 関口充 関根行雄 高島信義 高野真治 高橋千善 竹内宏一 竹内光弘 竹内ゆき 田中壮一郎 田中利裕
 田中秀樹 田中義人 田辺尋子 谷口喜一 谷口雅典 塚田茂晴 辻本篤郎 坪田知広 照井康平 徳納孝昭
 富田啓子 富田浩志 鳥井公一 中井滋 中務正裕 中山美子 西野和広 西村堯 布村幸彦 野口修
 野田勝憲 野田和喜子 萩原太郎 橋詰悦荘 橋本壽夫 橋本英樹 橋本満 馬場成一 馬場久和 濱口和久
 濱島健祐 平尾潔 平間研司 福井昂 藤井武志 藤川元 藤川由美 藤田三枝 二上直弘 堀川寛 本田郁雄
 前田慎吾 前田充紀 政本猛 松岡裕子 松田亨 松田匡史 松土直 松本正則 三浦隆子 三宅勇雄
 村橋泰志 森上展安 山口敏 山根直樹 山本正士 横山佳夫 若林悦子 脇山幸之 渡井勝成 渡辺英治
 渡辺和子 渡辺靖子
 (五十音順 敬称略)

理事・監事

理事長: 竹花豊 副理事長: 二村好彦 伊東一吉 納富善朗 常務理事: 小山洋子
 理事: 浅野悦洋 伊沢公晴 小池英仁 寺澤恵太郎 深川猛 森田孝明 山下哲夫 和田英光 渡部徹 渡辺嘉郎
 監事: 長坂敏史 岩崎智彌

〔発行〕 認定特定非営利活動法人おやじ日本

発行責任者 竹花 豊

住所 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町5番2号

渋谷区役所神南分庁舎3階

電話&FAX 03-3462-7113

ホームページ <http://oyaji-nippon.org/>

Eメールアドレス desk@oyaji-nippon.org

事務局長 小山 洋子

丸山 容子(編集担当) 大喜 滋子

発行日 2013年5月 ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます

